

5879

# 教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和 49 年度

小 樽 商 科 大 学

# 小樽商科大学教授要目

## 目 次

I 授業科目履修方法 .....	1
1 昭和49年度開講科目 .....	1
2 履 修 方 法 .....	6
3 科目試験の受験について .....	23
II 教 授 要 目 .....	24
1 一般教育科目 .....	24
2 外国語科目 .....	31
3 保健体育科目 .....	41
4 基礎教育科目 .....	45
5 専門教育科目 .....	47
6 教 職 科 目 .....	74
III 研究指導要項 .....	78

# I 授業科目履修方法

## 1. 昭和49年度 開講科目

区分	授業科目	単位	配当年次	担当教官名	備考	
一般系	哲学	4	Ⅱ	川村教授		
	心理学	4	Ⅰ	和田助教授		
	歴史学	4	Ⅱ	阿部教授		
	日本文学	4	Ⅰ	細谷教授		
	英文学	4	Ⅰ・Ⅱ	永原助教授		
	フランス文学	4	Ⅱ・Ⅲ	目黒教授		
	ロシア文学	4	Ⅱ・Ⅲ	松本教授		
社会科学系	社会科学概論	2	Ⅰ・Ⅱ	内田講師	(集中講義) 専修大学経済学部教授	
	社会学	4	Ⅱ	布施講師	(後期) 北海道大学教育学部教授	
	社会思想史	4	Ⅰ	倉田助教授	(後期)	
	教育学	4	Ⅲ	田中(昭)教授		
	法学(日本国憲法2単位を含む)	4	Ⅰ	大谷助教授	(前期) 小樽商科大学短期大学部助教授	
政治学	2	Ⅰ・Ⅱ	秋山講師	(後期)		
自然科学系	物理学	4	Ⅰ	松本講師	(集中講義) 東京教育大学文学部教授	
	化学	4	Ⅰ	原田助教授		
	生物学	4	Ⅱ	斎藤教授		
外国語科目	英語	4	Ⅰ	備考(1)参照		
	英語	4	Ⅱ			
	英語	2	Ⅲ			
	英語以外の外国語	ドイツ語	4	Ⅰ	備考(2)参照	
		ドイツ語	4	Ⅱ		
		フランス語	4	Ⅰ	備考(3)参照	
フランス語	4	Ⅱ				
中国語	4	Ⅰ	川上教授			
中国語	4	Ⅱ				

外国語科目	英語以外の語	スペイン語 {I II}	4 4	I II	寺崎講師		
		ロシア語 {I II}	4 4	I II			松本教授
保健体育科目		体育実技 {I II}	2	I II	杉山教授 藤江助教授 中川講師	小樽商業高校教諭 (前期)	
		体育講義	2	II			森岡教授 杉山教授 藤江助教授
基礎教育科目		経済学概論	4	I	長谷部教授 早見教授	(前期) (後期)	
		商学概論	4	I			伊藤教授
		管理科学概論	4	I	若林助教授		
		数学	4	I	白川助教授		
専門教育科目		統計学	4	II	久次教授	(後期)	
		数理統計学	4	III	久次教授		
		経済統計学	4	III・IV	長谷部教授		
		経済原論	4	II	藤井教授		
		経済変動論	4	III	増井教授		
		経済学史	4	III	佐藤講師		北海道大学経済学部助教授
		経済学特殊問題	4	II・III	安井講師		小樽商科大学短期大学部講師
		経済史概論	4	II	井上助教授		
		日本経済史	4	III	長谷川助教授		
		経済政策	4	III	望月教授		(後期)
		工業経済学	4	III・IV	吉武教授		(前期)
		社会政策	4	III	吉武教授		(前期)
		財政学	4	III・IV	早見教授		
		国際経済論	4	III	麻田教授		
		国際金融論	4	III・IV	足立教授		
	マーケティング	4	II	片桐講師	小樽商科大学短期大学部助教授		
	販売管理	4	III	山下教授			

専門教育科目	商品学	4	III・IV	斎藤教授	
	商業英語	4	III	北村講師	小樽商科大学短期大学部教授(後期)
	保険論	4	III・IV	田村助教授	(前期)
	証券市場論	4	III	石原(定)助教授	(後期)
	証券金融論	4	III・IV	鈴木(満)教授	
	企業分析	2	III・IV	鈴木(満)教授	(前期)
	有価証券論	2	III	石原(定)助教授	(後期)
	経営学原理	4	II	篠崎助教授	(前期)
	経営史	4	II	渡辺(尚)講師	(前期)北海道大学経済学部助教授
	労務管理	4	III	伊藤教授	
	生産管理	4	III	中橋助教授	
	財務管理	4	III・IV	坂井講師	札幌商科大学助教授
	産業心理学	4	III・IV	和田助教授	
	簿記学	4	II	田中(良)講師	小樽商科大学短期大学部講師(後期)
	簿記演習	4	III・IV	渡辺(和)講師	小樽商科大学短期大学部講師
	会計学	4	III	石河講師	札幌商科大学教授
	管理会計	2	III・IV	溝口講師	(集中講義)神戸大学経営学部教授
	外国書講読	4	III	山下教授	
	管理科学II	4	III	沼田助教授	(前期)
	管理科学特講II	3	III・IV	浅利講師	東海大学講師
	" III	3	III・IV	浅利講師	(後期)
	事務機械化	6	II	山田助教授	"
	応用数学(代数)	6	II	沼田助教授	
	" (解析)	6	II	鈴木(輝)講師	北海学園大学講師
	" (統計II)	6	III・IV	清水川助教授	
	" 特講I	3	II	山口講師	(前期)北海道大学工学部講師
" 特講II	3	II	山口講師	(後期)	
計算機論I	6	II	樋口助教授	"	
" II	6	III	戸島助教授		
憲法	4	II	秋山講師	小樽商科大学短期大学部助教授	
労働法	4	III	保原講師	(前期)北海道大学法学部教授	

専門教育科目	民法 I	4	II	神田助教授	(前期)北海道大学法学部助教授	
	民法 II	4	III・VI	藤岡講師 神田助教授		
	商法 I	4	III	青竹助教授		小樽商科大学短期大学部助教授 (後期)
	商法 II	4	III・IV	石原(全)講師		
	国際法	4	III	大谷助教授		
	国際機構論	4	III・IV	大谷助教授		
研究指導	12	III・IV	備考(4)参照	(後期)		
教職科目	教育原理	4	III	田中(昭)教授	「教育学」として開講 (後期)北海道大学教育学部助教授 (前期)非常勤講師	
	教育心理学	4	II	若井講師		
	商業科教育法	2	III	渡辺(羊)講師		
	英語科教育法	3	III・IV	脇田教授		
	教育実習	2	III・IV	麻田教授 伊藤教授 脇田教授 樋口助教授		
	教育史	4	II	田中(昭)教授		
	職業指導	4	III	石井講師		北海道教育大学札幌分校教授
	英語上級 III	4	III・IV	宮岡助教授		
	英語上級 IV	4	III・IV	君羅講師		
	英語学 II	4	III・IV	北市講師		北海道大学文学部助教授
英文学 II	4	I・II	永原助教授	「英文学」として開講		

備考

- (1) 英語 I, II, IIIの担当教官は次のとおりである。  
脇田教授, 宮岡助教授, 永原助教授, 君羅講師, R.O.ウォード外国人教師, J.R.ウェンガー外国人講師, 北村講師(小樽商科大学短期大学部教授), 菊池講師(小樽商科大学短期大学部助教授), 高嶋講師(小樽商科大学短期大学部助教授), 北市講師(北海道大学文学部助教授)。
- (2) ドイツ語 I, IIの担当教官は次のとおりである。  
小野講師, 今田講師(北海道大学文学部助教授), J.M.シュパンナーゲル外国人講師(北海道大学文学部外国人教師)。

- (3) フランス語 I, IIの担当教官は次のとおりである。  
目黒教授, 大賀講師(武蔵女子短期大学助教授), 中山講師(北海道大学文学部助教授)。
- (4) 研究指導担当教官は次のとおりである。(学科別・職名別・アイウエオ順)  
(経済学科)  
麻田教授, 足立教授, 長谷部教授, 早見教授, 久次教授, 藤井教授, 増井教授, 吉武教授, 井上助教授, 長谷川助教授。  
(商業学科)  
伊藤教授, 斎藤教授, 鈴木教授, 石原助教授, 篠崎助教授, 田村助教授, 中橋助教授, 和田助教授。  
(管理科学科)  
清水川助教授, 戸島助教授, 沼田助教授, 樋口助教授, 山田助教授, 若林助教授。  
(法学関係)  
青竹助教授, 大谷助教授, 神田助教授。

## 2. 履修方法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

(1) 単位修得については、各自が所属している、または所属しようとする学科・課程の卒業所要単位一覧表が第1表から第14表に掲げられているから、それぞれの表と「1」の昭和49年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し履修届を提出しなければならない。

なお、表中の単位数は最低所要の単位数を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

(2) 第1表から第5表までは昭和46年度以降入学者に適用、第6表から第12表までは昭和42年度～昭和45年度入学者に適用されるもので、それぞれの学科・課程に分かれているから学科・課程を決めた場合に、それぞれの表が適用される。

(3) 文学の単位は昭和45年度以前入学者については日本文学・外国文学のうち、いずれか1科目だけが卒業所要単位に算入される。昭和46年度以降入学者については、日本文学のほか、外国文学のうちいずれか1科目が卒業所要単位に算入される。

(4) 昭和42年度以降入学者の英語(I・II・III)は、1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修である。

(5) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は、いずれか1か国語を選択必修とし、1年次、2年次とも毎週4時間4単位づつ計8単位を履修しなければならない。

(6) 保健体育科目の実技2単位については、昭和42年度以降入学者は1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ 、2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 計2単位、講義については、2年次前期毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。ただし、昭和47年度以降入学者については、講義の一部が1年次に繰上げて行なわれる。

(7) 「教育原理」は履修学生の希望により「教育学」に振替えることができる。

(8) 「経営学原理」は昭和43年度以前入学者は、「経営学総論」と読み替え

る。

(9) 英語(上級III)、英語(上級IV)、英語学II、および英文学IIは高等学校英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが、課外科目(卒業所要単位に算入されない科目)として履修できる。また、英文学IIは一般教育科目の英文学と同じ講義であり、履修学生の希望によりどちらかの単位とすることができる。

(10) 研究指導を履修する学生は所属する学科・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度～昭和45年度入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位に、また、昭和46年度以降入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目76単位に含まれるものである。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導12単位分をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。また、商業教員養成課程に所属する学生にあっては経済学科・商業学科・管理科学科および法学関係の専門教育科目によって充足しなければならない。

なお、昭和42年度～昭和44年度入学者で管理科学科に所属する学生の研究指導12単位は必修である。

(11) 昭和42年度以降入学者で商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で高等学校2級普通免許状(商業・英語)の取得を希望する者は、第13表(商業)ならびに第14表(英語)の単位をそれぞれ取得しなければならない。

なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

(12) 昭和41年度以前の入学者の履修方法については、昭和45年度以前の教授要目を参照すること。

(13) 単位の互換制度について

学則にも規定されていますが、昭和48年度から北海道大学経済学部で授業科目を履修することが認められることになりました。[この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。]

その要領は次のとおりです。

(ア) 聴講出願対象者

学則(1)科目履修細則第4条に規定する。〔1, 2年次配当科目55単位以上〕単位数を修得した49年4月現在の4年次生

(イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
経済学説史	4	石垣	後期
北海道経済史	4	林	前期
経営立地論	4	大爺	後期
経営形態論	4	森	"
賃金論	4	荒又	前期

以上のうち3科目・12単位迄は卒業に必要な専門教育科目の単位に算入する。

1科目につき20名が限度。

(ウ) 聴講期間

昭和49年4月～昭和50年3月の1年間を限度とする。

(エ) 聴講料

不要。

(14) 教職科目の一部の隔年開講について

下記のとおりとなるので、履修計画に注意すること。

隔年開講該当教職科目	49年度	50年度	51年度	備考
教育心理学 (4単位)	○	○	×	(以下隔年) (〃) (〃) (〃)
商業科教育法 (2単位)	○	○	×	
職業指導 (4単位)	○	×	○	
英語科教育法 (3単位)	○	×	○	

○印=開講 ×印=非開講

2-1 昭和46年度以降入学者

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上 <small>(商業教員養成課程にあつては法学(日本国憲法2単位を含む。)を含め1科目以上)</small>
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	<small>(英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目)</small>
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	管理科学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	数学	4
日本文学	4	法学 <small>(日本国憲法2単位を含む)</small>	4				
英文学	4	政治学	4				
ドイツ文学	4						
フランス文学	4						
中国文学	4						
ロシア文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
7科目28単位以上							

ロ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学, 経済原論, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうち, いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理, 会计学, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 民法I, 民法II, 商法I, 商法IIのうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。

第3表 商業学科

区分	単位数	内容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。

第4表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目 2. 28単位のなかに, 統計学, 経済原論, 経営学原理, 会计学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。

第5表 商業教員養成課程

区分	単位数	内容
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目 2. 44単位のなかに経済原論, 統計学, マーケティング, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 簿記学, 会计学, 計算機論I, 事務機械化, 民法I, 商法Iのうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教職科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習, 職業指導を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係の各科目から, さらに12単位を履修しなければならない。



2-2 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第6表 経済学科・商業学科および管理科学科

区分	単位数	必修科目
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	8 2科目以上
	自然科学系	8 2科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目
保健体育科目	4	実技，講義
基礎教育科目	16	経済学概論，商学概論，管理科学概論，数学
合計	66	
備考 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち，日本文学および外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。 2. 高等学校教諭商業，英語二級普通免許状の取得を希望し，それに必要な単位を取得した者が，当該免許状の申請をする場合には基礎教育科目のうち「経済学概論」を社会科学系の，「数学」を自然科学系の一般教育科目の単位に充てることができる。		

第7表 商業教員養成課程

区分	単位数	必修科目
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	12 経済学概論，法学(日本国憲法2単位を含む)を含め3科目以上
	自然科学系	12 数学を含め3科目以上
	計	36 9科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目
保健体育科目	4	実技，講義
基礎教育科目	8	商学概論，管理科学概論
合計	66	
備考 一般教育科目(人文科学系)のうち，日本文学および外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	管理科学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	数学 4
日本文学 4	法学(日本国憲法2単位を含む) 4		
	政治学 4		
外国文学			
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
3科目 12単位	2科目 8単位	2科目 8単位	全科目必修
7科目 28単位			4科目 16単位

ロ 専門教育科目の履修方法

第8表 経済学科

区	分	内	容	単位数
必	修	科目	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法I, 商 法I	28
選 択 科 目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	}	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	16
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目		「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	
	研究指導		12	
計				80
卒業所要単位				146
備考 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について「研究指導」 12単位に相当する単位を修得しなければならない。				

[注] 14頁から19頁に記載されている別表第1とは「学園生活の手ひき」  
に記載されている学則第11条の別表第1を示す。

第9表 商業学科

区	分	内	容	単位数
必	修	科目	マーケティング, 経営学原理, 労 務管理, 簿記学, 会計学, 統計学 経済原論, 民法I, 商法I	36
選 択 科 目	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	}	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目 管理科学の「機械化会計」および 「計算機論I」を加える	20
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	12
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目		「機械化会計」, 「計算機論I」お よび「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	
	研究指導		12	
計				80
卒業所要単位				146
備考 研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について「研究指導」 12単位に相当する単位を修得しなければならない。				

第10表 管理科学科

a 管理科学コース (昭和42~44年度入学者)

区分	内容	単位数
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論	20
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	36
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	8
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導について「管理科学研究指導I」または「管理科学研究指導II」を履修しなければならない。		
2. 「管理科学研究指導I」の履修者は「管理科学I」の、「管理科学研究指導II」の履修は「管理科学II」の単位を修得することができない。		

b 管理科学コース (昭和45年度入学者)

区分	内容	単位数
選択必修科目	統計学, 経済原論, 経営学原理, 会計学のうちから	8
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	36
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	
研究指導		12
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。		
2. この表は昭和45年度入学者に適用する。		

c 機械化会計コース (昭和42~44年度入学者)

区 分	内 容	単位数
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論, 簿記学, 会计学	28
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目 機械化会計, 事務機械化, 情報処理, 計算機論I, 計算機論II, 管理科学特講I, 管理科学特講II, 管理科学特講III, 管理科学特講IVのうちから 「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目 「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	12
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目 「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目 「研究指導」を除いた科目	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目 「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	16
計		80
卒業所要単位		146
備考 1. 研究指導については, 「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。 2. この表は昭和42年度生から適用する。		

d 機械化会計コース (昭和45年度入学者)

区 分	内 容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論, 簿記学, 会计学	16
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目 機械化会計, 事務機械化, 情報処理, 計算機論I, 計算機論II, 管理科学特講I, 管理科学特講II, 管理科学特講III, 管理科学特講IVのうちから 「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目 「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	28
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目 「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目 「研究指導」を除いた科目	
	研究指導	
計		80
卒業所要単位		146
備考 1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 2. この表は昭和45年度入学者に適用する。		

第11表 商業教員養成課程

区 分	単位数	必 修 科 目
専 門 教 育 科 目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係 科目の全科目)	48	統計学, 経済原論, 経営学原理, 簿 記学, 会計学, 民法I, 商法I
教 職 科 目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育 法, 教育史, 教育実習, 職業指導
研 究 指 導	12	
計	80	
卒 業 所 要 単 位	146	
備 考		
<p>1. 研究指導については, 経済学科研究指導・商業学科研究指導・管 理科学研究指導I・管理科学研究指導II・機械化会計研究指導およ び法学関係研究指導のうちいずれかひとつを履修するものとする。</p> <p>2. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科お よび法学関係の科目について, 「研究指導」12単位に相当する単位 を修得しなければならない。</p>		

第12表 商業教員養成課程

区 分	科目数等	単位数	必 修 科 目	
一 般 教 育 科 目	人文科学系	3 科 目	12	
	社会科学系	3 科 目	12	経済学概論, 法学(日本国憲法2 単位を含む)
	自然科学系	3 科 目	12	数学
	計	9 科 目	36	
外 国 語 科 目	英語(I・II・ III)を含め2 カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目	
保 健 体 育 科 目	2 科 目	4	実技, 講義	
基 礎 教 育 科 目	2 科 目	8	商学概論, 管理科学概論	
専 門 教 育 科 目		60	統計学, 経済原論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法I, 商法I	
教 職 科 目	6 科 目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教 育法, 教育実習, 教育史, 職業指導	
卒 業 所 要 単 位		146		
備考 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商 業学科, 管理科学科, 法学関係科目の全科目から履修することがで きる。				

第13表 商業科教員免許資格取得希望者(昭和42年度以降入学者)

区 分	単位数	必 修 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法2単位を含む)
教職に関する 専 門 科 目	16	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 商業科教 育法2単位, 教育実習2単位, 教育史4単位
教科に関する 専 門 科 目	4	職業指導
合 計	20	
備考 この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用する もので, それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修 得しなければならない。		

第14表 英語科教員免許資格取得希望者（昭和42年度以降入学者）

区分	単位数	必修科目	選択科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する 専門科目	32	英語(上級Ⅰ), (上級Ⅱ)} 12単位 " (上級Ⅲ), (上級Ⅳ)} 英語学Ⅰ, 英語学Ⅱ} 16単位 英文学Ⅰ, 英文学Ⅱ}	商業英語 4単位
教職に関する 専門科目	17	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 英語科教育法3単位, 教育実 習2単位, 教育史4単位	
合計	49		
備考			
<p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。</p> <p>2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、13表、14表双表の場合に併合できる。</p>			

### 3. 科目試験の受験について

定期試験(前期, 後期)およびこれに準ずる試験を受験する場合あらかじめ受験届を提出し, 次の注意事項を厳守して, 不利益をうけることのないよう十分留意してください。

#### ★受験に際しての注意事項(科目試験実施要項の要約)

1. 指定された席に着席すること。(指定の席は, 受験届の提出により決定され, また試験開始5分前には着席し, 待機すること。)
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。
3. 試験時刻におくれた者は原則として受験できない。ただし, 20分以内の遅刻者は, 事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書, 参考書, ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め, 机の中にそれらを入れないこと。
7. 教科書, 参考書, ノートなどの参照を許された試験においては, それらの貸借を禁止する。受験生の間で, 貸借のあった場合は, それを不正行為とみなす。
8. 配布された答案用紙は必ず提出し, 持ち帰ることのないこと。
9. 試験場において, 私語, その他いやしくも疑惑を招くような行為のないよう特に留意し, 厳正な態度で受験すること。
10. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

以上

## II 教授要目

### 1 一般教育科目

#### 哲学

教授 川村 三千雄

1. 哲学的真理と哲学的認識
2. 哲学的知と、常識、日常性、伝統
3. 哲学と科学
4. 哲学と実践的生
5. 哲学と宗教
6. 哲学の根源無知と愛知
7. 哲学の始源
8. 理性と経験
9. 現代思想の精神的状況

#### 心理学

助教授 和田 完

行動主義的な現代心理学の特質を概観することを授業の主旨とする。まず史的な展望を通して、心理学の方法上の特徴にふれる。次に、「動機づけ」という概念にみられる力動的な物の考え方、行動の変容過程を条件反応で説明しようとする学習理論、人間の認知過程を支配する一般的法則等を取りあげる。また、社会的場に現われる個体の差異を、パーソナリティという概念のもとで論じられよう。

#### 歴史学

教授 阿部 謹也

歴史研究とは我々の生活現実の理知的認識作業の一環として営まれるものである。生活者がとらえる生活現実のひろがりは一方向で地域に沈潜し、他方で世界史に連なってゆかざるをえない。一地域に生きる人間の生活が同時に世界史のなかに位置づけられている、ということの自覚は単に既成の理論から与えられるものではなく、各個人が自らの生活現実を深く掘り下げるところにしか生まれまいだろう。

第一部においては、近代歴史学成立以前において人々がこうした問題をどのようにとらえてきたのかを歴史的思惟と非歴史的思惟との相克の問題として扱い、近代歴史学成立以後の社会諸科学が同様な問題を合理化的認識作業としてどのように扱ってきたのかをみる。

第二部においては、こうした理解のうえにたつて、個別化的認識のなかに全体をとらえようとする歴史主義 Historismus の成立と現在におけるその可能性の問題を扱う。

#### I 歴史学とは何か

##### 歴史的思惟方法の歴史的展開

1. ユダヤ教・原始キリスト教における歴史的思惟
2. ギリシヤ・ローマにおける歴史的思惟
3. ヨーロッパ中世における歴史的思惟
4. 日本における歴史的思惟と非歴史的思惟の相克

##### 近代歴史学の成立

1. 啓蒙史学とその批判者
2. 19世紀ドイツにおける近代歴史学の成立
3. 歴史学派経済学とその批判者
4. マルクス経済史学の形成とその批判者

#### II 歴史主義の成立——ユストウス・メーザー——

1. メーザーの生涯
2. メーザーの時代のドイツ
3. メーザーにおける都市と国家
4. メーザーにおける歴史認識の方法

#### 日本文学

教授 細谷 直樹

『方丈記』『徒然草』は高校の二年までの教科書でお目にかかる教材でありこれを大学でもう一度ということになれば、なんだ、高校の復習かとうんざりされそうだが、自分ではわかったつもりのものも、どんなにわかっていないかを、大学生活の第一歩で、はっきり知っていてほしいので、今年度は『方丈記』と『徒然草』を読もうと思う。

教科書、築瀬一雄訳注「方丈記」（角川文庫）西尾実校注「徒然草」（岩波文庫）

## 英 文 学

助教授 永 原 和 夫

René Wellek & Austin Warren, *Theory of Literature* (Harcourt, Brace & Wored) にもとづき下記の項目について略述する。

1. The Nature of Literature
2. The Function of Literature
3. Literature and Biography
4. Literature and Psychology
5. Literature and Society
6. Literature and Ideas
7. Literature and the Other Arts

## フランス文学

教授 目 黒 士 門

中世フランス文学の講読を行なう。取り扱う作品はヨーロッパの小説の原流クレチャン・ド・トロワの『ランスロまたは車上の騎士』。ランスロは円卓の騎士の1人。湖水の底で仙女ヴィヴィアンヌに育てられたランスロは、長じてアーサー王の奥方グニエーヴル王妃を熱愛し、王妃への愛ゆえに、ありとあらゆる試練に遭遇する。中世ヨーロッパの人間関係観、恋愛観、騎士道精神を知る上に必読の書である。

用書は下記の現代語訳を使用する。

CHRÉTIEN DE TROYES, *LE CHEVALIER DE LA CHARRETTE (LANCELOT)*, CHAMPION版。

用書の入手には手間がかかりますので受講者は目黒教官より用書を借り、各自ゼロックスその他複写機によりコピーを作ること。

受講者はすくなくともフランス語Iを履修したものに限ります。

## ロシヤ文学

教授 松 本 忠 司

講義主題：ゴースキイと19世紀末ないし20世紀初頭のロシヤ文学

内 容：19世紀ロシヤ文学と革命後のソヴェト文学とのかけ橋としての役割を果たした作家、マクシム・ゴースキイの生涯と文学創作を中心に取り扱いながら、人間・時代・社会のかかわりあいを考究していく。受講者にたいしては、ロシヤ語の知識を要求しないが

講義主題の前提となるゴースキイ以前のロシヤ文学について詳述する時間的余裕がないので、あらかじめ、文学史的知識を用意しておいておくよう希望する。比較的入手しやすいものとして、金子幸彦著「ロシヤ文学案内」(岩波文庫)をあげておく。

講義の順序は、ほぼつぎのように進められる予定である。

### I ロシヤ文学の基本的諸問題

- 1) インテリゲンツィヤの成立とその背景
- 2) 批判的リアリズムの成立とその系譜
- 3) 農奴解放期の文学

### II ゴースキイとその時代

- 1) 作家への道
- 2) ゴースキイと同時代人たち
- 3) 作品論
- 4) 遺産継承と文学革新の諸問題

### III ロシヤ革命とインテリゲンツィヤの諸問題

参考文献：講義のなかで、必要に応じて示すが、さしあたり、ゴースキイ関係の邦文による文献として、つぎに掲げておく。

松本忠司著「ゴースキイ研究(1)作家への道」(理想社, 1968)。グルーズジェフ著、山村房次訳「人類の教師4・ゴースキイ」(明治図書, 1972)。佐藤清郎著「ゴースキイの生涯」(筑摩書房, 1973)。松本忠司編訳「ゴースキイ文芸書簡」〔I~II〕(光和堂, 1973)。

## 社会科学概論 (集中講義)

非常勤講師 内 田 義 彦

(2単位)

(専修大学経済学部教授)

## 社 会 学

(後期) 非常勤講師 布 施 鉄 治

(北海道大学教育学部教授)

本年度の社会学の講義は大きく2つの部門にわけて行なう。

(1) 第一の部門は、いわば総論にあたる部門で、人類社会の現実的發展に相応して、社会に関する認識が如何に科学的に進化してきたかという道すじをあきらかにする。いうまでもなく古典古代の時代、また中世、近世においても人類はその社会の現実的發展にみあった社会像を有していた。しか



し社会に関する認識が、あらためて人類に問われたしたのは、あきらかに人類社会が「市民社会」を創出した以降のことに属する。そして市民社会が資本主義的生産様式として発展する中で、その初期において大きな危機におちいったさい、人びとの意のままにならぬ社会という実体を、人はあらためて捉える必要にせまられた。この段階において、資本主義社会（産業社会）の秩序を維持、発展するという立場から、オーギュスト・コントを始祖とする「社会学」がうまれると共に、他方、労働者階級の立場に立つマルクス・エンゲルスを始祖とするマルクス主義社会理論が生まれた。今日、アメリカと共にソ連邦、東欧諸国においても社会学は発展しており国際社会学会をとおして、社会学は自らの地歩をすすめつつある。前半では、かような形で発展しつつある人類の社会に関する認識過程の前進を問題とする。

- (2) 第二に、本講義では、いわば各論として、国家、地域社会、集団—組織意識、イデオロギー、マスコミ、諸個人の行為とパーソナリティ階層、階級等々社会学の基礎を詳述する。

## 社会思想史(後期)

助教授 倉田 稔

## 教育学

教授 田中昭徳

- I 知識と教育
- II 労働と教育
- III 生活と教育
- VI 学校と教育
- V 国家と教育

テキストはその都度指示する。

## 法学(日本国憲法) (2単位を含む) (前期)

助教授 大谷良雄

(後期)

非常勤講師 秋山義昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

1. 法と国家

2. 法と経済
3. 司法制度論
4. 法の概観

## 政治学(集中講義)

非常勤講師 松本三之介

(2単位)

(東京教育大学文学部教授)

日本政治思想史について講義する。講義で、直接、対象として採り上げるのは、幕末から明治初期にかけての政治思想が中心となる。これらの思想の分析を通して、日本における近代政治意識の形成過程とその特質を明らかにしたいと考えているが、できるだけ、単に限られた過去の思想そのものの分析に終ることなく、それを通して近代日本の政治的思考方法の問題点や日本の思想的風土の問題などにも言及していきたい。

テキストとしては、松本三之介『日本政治思想概論』(上)(勁草書房刊)を使用する予定である。なお、講義の内容にもっとも密接に関係する諸問題を取り扱った参考書としては、橋川文三・松本三之介(共編)『近代日本政治思想史』(I)(有斐閣刊)および松本三之介『天皇制国家と政治思想』(未来社刊)。その他の参考文献は講義の際に紹介する予定。

## 物理学

助教授 原田 稔

## 化学

教授 斎藤 要

化学は一つの教育体系をもった学問であるが、その体系は化学を専攻する学生にとって都合よくできているようである。教養過程の化学は、この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大したものであるが、本年度は基礎化学部門として、化学において対象を認識してゆく科学方法論と基礎的な仮説とか法則を唯物論的立場から検討を加え、さらに応用化学部門として技術革新に対応する石油化学の発展史と、その発展がもたらす諸問題などについて述べたいと思う。なお教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介し、さ

らに、おりをみて実験も行なう。

## 生 物 学

非常勤講師 向 川 信 一  
(北海道大学理学部助手)

生命とは何かという古くて新しい問題が生物学のテーマである。古来より生命観をめぐって大きな思想的対立があり、それは又人間そのものの生き方にかかわる問題であったともいえる。今日まで、人類は生命現象の諸側面に関する知見を積み重ね生物学的法則の確立に努力してきた。講義はとくにテキストは定めず、生命の起源に関する問題から生殖、発生、遺伝などについてトピックスを加え進める予定である。

## 2 外国語科目

### 英 語

#### (A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 昭和42年度以降入学者の英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和49年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論、伝記等の文学作品以外の講読で、2は会話作文である。1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、1年次生は文学作品とその他の講読のうちからいずれか2単位のほかに、他のクラスの講読か会話いずれか2単位合計4単位、2年次生は同じく講読2単位と他のクラスの講読2単位合計4単位、3年次生はいずれのクラスでもよいから2単位を選択履修することになる。
- (6) 履修する学生は別表と「教授要目」をよく読み、自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の方法はカードに希望するクラス名を書き込み、学生課の窓口へ提出するというやり方になるが、その詳細については別途指示する(学生課からの掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履習届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表 (昭和49年度クラス配置表)

講 学 作 品	E101	脇 田	E201	脇 田	E301	脇 田
	E102	脇 田	E202	君 羅	E302	永 原
	E103	永 原	E203	君 羅	E303	ウオード
	E104	永 原	E204	永 原		
	E105	君 羅	E205	ウオード		
			E206	ウオード		
読 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E111	君 羅	E211	宮 岡	E311	宮 岡
	E112	北 市	E212	宮 岡	E312	高 嶋
	E113	北 市	E213	菊 地	E313	ウオード
	E114	宮 岡	E214	高 嶋		
	E115	北 村	E215	菊 地		
			E216	ウエンガー		
			E217	ウエンガー		
会 話	E121(A B)ウオード					
	E122(A B)ウオード					
作 文	E123(A B)ウオード					

英 語 I

◦ E 101, E 102 教授 脇 田 勇

テキスト: W. S. Maugham, *The Colonel's Lady & Other Stories*, 英宝社, ¥420.

◦ E 103, E 104 助教授 永 原 和 夫

テキスト: *American Accent*, 南雲堂, ¥850.

◦ E 105 講師 君 羅 久 則

テキスト: J. D. Salinger, *Uncle Wiggily in Connecticut*, 松柏社, ¥500.

◦ E 111 講師 君 羅 久 則

テキスト: C. Day Lewis, *Poetry for You*, 南雲堂, ¥380.

◦ E 112 非常勤講師 北 市 陽 一

(北海道大学文学部助教授)

テキスト: R. Firth, *Human Types—An Introduction to Social Anthropology*, 南雲堂.

各パラグラフの内容把握を中心とする。

◦ E 113 非常勤講師 北 市 陽 一

(北海道大学文学部助教授)

テキスト: K. Method & K. Dobbyn, *What the Newspapers Say*, 英潮社.

内容の正確な理解を目標とする。

◦ E 114 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト: S. Chase, *Danger—Men Talking*, 南雲堂.  
S. Chase, *The Tyranny of Words*, 松柏社.

◦ E 115 非常勤講師 北 村 正 司

(小樽商科大学短期大学部教授)

テキスト: Mackenzie & Westwood, *Background to Britain*, 英潮社, ¥580.

Doty & Ross, *Life in the United States*, 成美堂, ¥350.

読解力ばかりでなく聴解力の養成をはかりたい。

◦ E121 (A & B), E122 (A & B), E123 (A & B)

外国人教師 Richard O. Ward

This is a class in the oral study of English. Each week the student will be required to attend the Language

Laboratory for study of the week's lesson. In class periods, the work will focus on oral practice and on material from the textbook *Intensive Course in English (Part Two)*. There will be a mid-year and final examination, and many dictation quizzes as well. Attendance in Language Laboratory and in class meetings will be an important part of the student's grade, as will be the student's oral contributions in class. Attendance will be taken each week (both in class and in the Language Laboratory), and any student who misses more than seven classes will not receive a passing grade.

## 英 語 II

- E 201 教授 脇 田 勇

テキスト：W. S. Maugham, *Books and You*,  
金星堂, ¥470.

- E202, E203 講師 君 羅 久 則

テキスト：Ugene O'Neill, *Ah, Wilderness and Other Plays*,  
Eichosha-Penguin ¥940.

- E 204 助教授 永 原 和 夫

テキスト：Carson McCullers, *The Heart is a Lonely Hunter*,  
Penguin, ¥410.

- E 205, E 206

外国人教師 Richard O. Ward

The class will consist of lecture and discussion on aspects of contemporary American life. There will be weekly reading assignments from *Life in the U. S. A.* by Doty and Ross. Examinations will be objective for the most part,

but student contributions to class discussions will also be important. Attendance will be taken in each class meeting, and students with poor records of attendance will not pass.

- E211, E212 助教授 宮 岡 伯 人

テキスト：E. Sapir, *Culture, Language and Personality*, Univ. of  
California Press.

- E 213 非常勤講師 菊 地 昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト：Erich Fromm, *Dream Interpretation*, 英宝社, ¥520.

- E 214 非常勤講師 高 嶋 稔

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト：A.H. Marckwardt and R.R. Quirk, *Common Language*,  
研究社, ¥300.

B. Foster, *The Changing English Language*, 成美堂, ¥450.

- E 215 非常勤講師 菊 地 昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト：Erich Fromm, *Dream Interpretation*, 英宝社, ¥520.

- E 216 外国人講師 James Wenger

テキスト：Eugene Nida, *Customs and Cultures*, 朝日出版, ¥520.

The focus of this course will be on cultural diversity as it is found throughout the world. Class discussion will be encouraged. Requirements are class attendance, reading and occasional writing assignments, and tests. Students who attend the course less than two-thirds of the time will not be allowed to pass.

◦ E 217 外国人講師 James Wenger

テキスト：*Newsweek* (approximately one issue per month; about ¥130 per issue).

This course was planned for students with special ability or prior preparation in oral English. Students will choose selections from each issue and lead the class discussions on them. There will be tests, and attendance will be required at least three-fourths of the time.

英 語 III

◦ E 301 教授 脇田 勇

テキスト：D. H. Lawrence, *Women in Love*, Eichosha-Penguin, ¥980.

◦ E 302 助教授 永原和夫

テキスト：George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*, Eichosha-Penguin, ¥640.

◦ E 303 外国人教師 Richard O. Ward

The class will concentrate on the works of Ernest Hemingway from the text book *The Essential Hemingway*. Oral contributions in class will be important. Attendance will be taken each week, and students with poor records of attendance will not pass.

◦ E 311 助教授 宮岡伯人

テキスト：E. Sapir, *Selected Writings of Edward Sapir* (プリント).

◦ E 312 非常勤講師 高嶋 稔

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト：A. H. Marckwardt, *American English*, 北星堂, ¥450.

◦ E 313 外国人教師 Richard O. Ward

The class will not have any assigned textbooks, but weekly readings of various English newspapers and magazines will be required. Current events will be featured as the central topic of class discussions, and each student will be expected to participate. In addition, each student will write and deliver two speeches during the course. Various forms of writing styles will be discussed, and a considerable quantity of writing will be required of each student. Attendance will be taken in each class meeting, and any student with a poor record of attendance will not pass.

独 語 I・II

講師 小野光代

外国人講師 Jobst Mathias Spannagel

(北海道大学文学部外国人教師)

非常勤講師 今田 淳

(北海道大学文学部助教授)

語学力の養成には、聞く能力、話す能力の訓練が不可欠のものであるという方針のもとに、週二回の授業のうち一回は、ドイツ人講師中心の授業となる。会話体のテキストを使用するが、これは語学力全般の涵養のためであって、会話そのものが目的なのではない。また語学は「慣れる」ということがきわめて大切なので、出席を重視する。よほどの事情がないかぎり、実際の出席日数が、授業日数の%に満たないものには、期末テストの受験を認めない方針である。

テキスト

火曜日 独語 I (A, B) シュパンナーゲル/小野

フォルダーヴェルベッケ・嶋屋編ドイツ語初級コース郁文堂 ¥800

独語Ⅱ (A, B) シュパンナーゲル/小野

昨年度よりの継続

木曜日 独語Ⅰ A 今田 淳

Isamu Kurosaki: Deutsche Grammatik mit Übungen

独語Ⅰ B 小野光代

西尾幹二著 現代学生のためのドイツ文法 朝日出版社 ¥680

独語Ⅱ A 今田 淳

Pitt strong: Der Doppelgänger

独語Ⅱ B 小野光代

中島悠爾編 もうひとりの男 白水社 ¥450

## フランス語

フランス語受講者は下記のクラス編成に従って受講すること。所属クラスは別途発表する。授業運営の都合上、所属クラスの変更は認められない。

火	フランス語ⅠA組 (目黒教授)	フランス語ⅡA組 (目黒教授)
	フランス語ⅠB組 (大賀講師)	フランス語ⅡB組 (大賀講師)
木	フランス語ⅠA組 (中山講師)	フランス語ⅡA組 (中山講師)
	フランス語ⅠB組 (目黒教授)	フランス語ⅡB組 (目黒教授)

フランス語Ⅰ (AB組とも) 教授 目黒士門

文法を中心に授業を行う。

用書、目黒士門編『新稿フランス文法入門』(第三書房) ¥450

フランス語Ⅱ (AB組とも) 教授 目黒士門

前期は文法中心に1年生のときの総まとめを行う。後期は作品の講読を行う。

用書 目黒・工藤編『初等フランス語教科書』白水社 ¥450

## フランス語Ⅰ・B

非常勤講師 大賀 淳

(武蔵女子短期大学助教授)

やさしい散文、あるいは会話体の文章を数多く読んで、語いを豊富にし、フランス語に慣れるようにしたい。

テキスト：初級フランス語(読本編) *Frangais Élémentaire Lecture A*. Yamada 駿河台出版社

## フランス語Ⅱ・B

非常勤講師 大賀 淳

(武蔵女子短期大学助教授)

平易なコトを幾つか読んだ後、短編小説の傑作を一、二編読んでみたい。

テキスト・プロカ通りのコト *Contes de la rue Broca* Piereve G-ripari 朝日出版社

## フランス語Ⅰ・A

非常勤講師 中山 毅

(北海道大学文学部助教授)

用書丸山・ウオルフ共著「NMF絵で学ぶフランス語」朝日出版

## フランス語Ⅱ・A

非常勤講師 中山 毅

(北海道大学文学部助教授)

用書中川・イザベル長谷川共著(カロリーヌ大学へ行く) 駿河台出版

## 中国語Ⅰ

教授 川上久寿

テキスト

新入門中国語(中国建設「中文月課」増補版)

香坂順一改編増補

光生館 ¥450

辞典 中日大辞典 愛知大学中日大辞典編纂処

中国語辞典 鐘ヶ江信光著 大学書林

現代中日辞典 香坂・太田共著 光生館

岩波中国語辞典 倉石武四郎著

現代日中辞典 香坂, 望月, 宮田編 光生館

## 中国語Ⅱ

教授 川上久寿

テキスト

文法・作文テキスト中国語の基礎 光生館  
金のなる樹—童話と作文— 水世常・長谷川寛共編 白水社  
老三篇・反対自由主義 毛沢東著作言語研究会編 満江紅

## スペイン語Ⅰ

講師 寺崎英樹

基礎的なスペイン語の表現を学び、同時に基本的な文法知識を完全にマスターすることを目標とする。はじめて学ぶ外国語には、機械的な練習が不可欠であるが、教室での練習時間は限られているので、記憶を要する事項は、個人的に学習することが必要である。

教科書：佐藤玖美子編『なにを話しましょうか』（芸林書房）

一色忠良編『スペイン小話』（芸林書房）

辞書、参考書等は、学年はじめに指示する。

## スペイン語Ⅱ

講師 寺崎英樹

前期当初は、昨年度の教科書の継続、その後、下記を教科書として学習する。

教科書：野間一正編『中級スペイン語読本』（芸林書房）

B. Pérez Galdós, *Trafalgar* (白水社)

## ロシア語Ⅰ

教授 松本忠司

発音、文法、読解、作文。

テキスト：和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社刊 ¥650

ほかに、詩・歌謡・民話のプリント配布する予定。

## ロシア語Ⅱ

教授 松本忠司

講読に主眼をおく。

テキスト：未定（現代ソヴェト作家の戯曲を取り上げる予定）。

辞書 八杉貞利著 岩波ロシア語辞典 岩波書店

## 3 保健体育科目

### 体育実技Ⅰ・Ⅱ

教授 杉山 登

助教授 藤江 正

非常勤講師 中川平悟

#### I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間（60時間）、2年目は前期・後期各2時間（30時間）を選択履修することになっている。

体育実技実施種目は、必修種目と選択種目とからなり、必修種目としては、1年目は水泳、スキー、トレーニング法の実際を行なう。2年目は水泳、スキーのいずれかを選択必修するものとする。また、選択種目としては下記のⅢにあげた5種目中より、1年目は1年間に2種目を選択履修し2年目は1種目を選択履修するものとする。

#### II 必修実技種目とその内容

##### (1) 水 泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。

実技内容としては、クロール、平泳、背泳、バタフライ、横泳、立泳、潜行、飛び込み、人工呼吸法等に関して実習する。指導段階として初級、中級、上級の3班に分け、初級班では1～2種目泳法修得と、25m泳を、中級班では3～4種目泳法修得と1年目で50m泳、2年目で100m泳を、また、上級班は履修すべき全種目の修得と1年目で100m泳、2年目で200m泳を、ある程度のスピードをもって泳げることを目標としている。実施期間に関しては6月下旬～7月上旬にかけて3週間（6時間）と、夏季休暇後1週間（2時間）で実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

##### (2) ス キ ー

直滑降、斜滑降系技術、プルーク系技術、シュテム・クリスチャニア、パラレル・クリスチャニア、ウェーデルン等について実習する。指導段階としては、初級、中級、上級の3班に分け、初級班では1年目で歩行、

滑走法、方向変換、転倒法、登行法等の初歩動作から直滑降、プルーク・ボーゲン等の基礎的滑降・回転技術を、2年目ではシュテム・クリスチャニア、中級班では1年目にシュテム・クリスチャニア、2年目でパラレル・クリスチャニア、上級班では1年目でパラレル・クリスチャニア、ウエーデルン、2年目で総合応用的な技術習得（ポール技術、深雪、プレ・ジャンプ）を目標としている。実施時期については、1月～2月にかけて4週間（8時間）実施する。

(3) トレーニング法とその実際

学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかることは極めて重要なことである。4月～5月の期間を体力づくりのため一般的トレーニング法、用具使用法、トレーニングのための処方仕方等について実習し、自分で処方し、継続実施してゆくようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者（体力診断テストの結果、判定でD・E級の者）に関しては5月以降も継続指導してゆきたい。

(4) 体力測定とその内容

反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降→体力診断テスト  
50m走、ハンドボール投げ、懸垂腕屈伸、持久走（または強歩）→運動能力テスト

以上の種目であるが、全種目実施が望ましいが、都合により7～9種目程になることもある。体力測定実施時期については、第1回目は4月下旬～5月上旬、第2回目が6月中旬～7月上旬（トレーニング・グループのみ）、第3回目が10月下旬～11月上旬となっている。

体力の優劣を判定するには、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが、自己の体力の現状を常に正しく把握しておくことが肝要である。

Ⅲ 選択実技種目とその内容

バスケット・ボール、バレー・ボール、バドミントン、ピンポン、ソフトボールの5種目である。前期（5月～9月）、後期（10月～12月）の2期で異なった種目を1種目選択履修する。なお、人員等の関係から選択種目の変更をさせることもある。また、雨天の場合には体育館内で実施可能な種目に限定される。

体育講義(1)

教授 杉山 登

◆トレーニング基礎理論

1. 現代人と健康
2. トレーニングの意味
3. トレーニングの原則
4. トレーニングの種類と方法
5. トレーニング処方の仕方

<注>この講義は、5月上旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

◆水泳基礎理論

教授 杉山 登

1. 水泳と人間生活
2. 水泳の特性について
3. 水泳の原理について
4. 水泳安全管理について
5. 水泳指導法

<注>この講義は、6月中旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

◆スキー基礎理論

助教授 藤江 正

1. スキー技術の推移
2. スキーの安全管理
3. 山岳スキーについて
4. スキー技術と体力

<注>この講義は、11月上旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

体育講義(2)

◆保 健

教授 森岡 知一

人体生理及び病理の概要を講述し、健康の維持、管理の方法についてのべる。



- (1) 人体の構造と機能
  - (2) 疾病論
  - (3) 健康の維持, 管理
- 特別に, テキストは使用しない。

## 4 基礎教育科目

経済学概論 (前期) 教授 長谷部 亮 一  
 (後期) 教授 早見 弘

下記を参考書として, 経済社会の中心的な諸問題にたいする現代経済学のもの  
 の見方, 考え方を身につけるための基礎的分析方法を講義する。

P.A.Sanuelson, *Economics, an introductory analysis*, 9th ed.

商学概論 教授 伊藤 森右衛門

- 第一講 序—「商」の概念と商学—
  - 第二講 経済体制と商業思想
  - 第三講 商業組織と経営形態
  - 第四講 マーケティングと消費者行動
  - 第五講 「商流」と「物流」のシステムと合理化
- 註, 参考書は講義のなかでその都度示す。

管理科学概論 助教授 若林 信夫

- 第一章 管理科学的思考とは何か。
- 第二章 管理科学の手法について。  
 (数理計画法, 日程計画法など)
- 第三章 確率とその応用について。
- 第四章 電子計算機と論理。

数 学 助教授 白川 寛

微積分の講義と演習をします。教科書「微分積分学, 改訂版, 吉田洋一著  
 培風館」。昨年と同様。昨年度は以下のようなものでした。I, II, III章は, 解析  
 学の基本公理(連続の公理)より指数関数の微積分を厳密にみちびくことを  
 目的としました。V, VI, VII章は, 専門課程(応用数学(解析), 数理統計  
 数理経済, 等)に必要な計算力です。本年度は, 冒頭に, 簡単な差分方程式

の解法（1階定数係数線形，2階定数係数線形）の章をおきます。又，Ⅲ～Ⅶ章では「演習」をかなりやりますが，過大な要求はしないので，苦手の学生には特に出席を求めます。

前期 I章，平均値の定理（教科書Ⅲ章）

II章，積分法（教科書IV章）

III章，指数関数と対数関数（教科書V章）

IV章，三角関数と逆三角関数（教科書VI章）

V章，広義積分（教科書IX-7）

（ガンマ関数と  $\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx$  の収束）

後期 VI章，偏微分法（教科書XI章）

（偏導関数，全微分，テーラーの定理の拡張，極大と極小，陰関数，ラグランジュの未定係数法）

VII章，微分方程式の解法（教科書付録）

（同次形，全微分形，1階線形，2階定数係数線形）

数II，数III未履習者は，教科書I，II章（P.1～P.46）を夏休み前までには必ず読むこと。ここは数II，IIIで学んだ微分法の復習にあたる所です。なお，教科書のVII章不定積分の計算，IX章関数の極限（広義積分はのぞく）X章数列と級数，XII章重積分は，やりません。

## 5 専門教育科目

### 統計学

教授 久次 智 雄

講義内容

2. 度数分布の分析
3. 関係の分析
4. 時系列の分析
5. 確率と理論的分布
6. 標本理論
7. 推定の理論
8. 検定の理論
9. 予測と決定

テキスト

森田優三著「新統計概論」日本評論社（昭和49年）1,800円

### 数理統計学

教授 久次 智 雄

「統計学」，線形代数，および解析学（偏微分および重積分の初歩を含む）の初等知識を前提として，統計学の数理的側面について講義を行ないます。テキストは主として補充教材用としてまた演習用の問題集として利用することとし，計量経済学との接続を考慮した話題を補充するなど，必ずしもテキストにはとらわれないで講義を進めます。昨年度の講義では基礎的な数学理論に重点をおきましたが，今年度は基礎理論が応用面に十分に活かせるようにするため，問題演習を重視することにします。

講義内容

1. 確率
2. 確率変数
3. 一変数分布
4. 多変数分布
5. 標本分布
6. 母数の推定
7. 仮説の検定

- 8. 回帰分析
- 9. 分散分析

テキスト

森田優三著「統計数理入門」日本評論社（昭和47年）

## 経済統計学

教授 長谷部 亮 一

国民所得統計を中心にして、各種関連データの吟味、経済分析における統計的処理におよぶ。

参考文献などは、講義中に指示する。

## 経済原論

教授 藤井 栄 一

参考文献：スティグラール『価格の理論』（上，下）；フリードマン『価格理論』；フリードマン『資本主義と自由』；パーティンキン『利子，貨幣，および価格』；ヘンダーソン・クォント『現代経済学』（改訂版）；Debreu, *Theory of Value*；Clower(ed.), *monetary Theory*

これらを、かなり読みこなせる可能性がある方だけが履修していると想定して講義します。講義の大体の順序は以下のとおりですが、かなり自由に話をすすめ、体系化にはこだわりません。できるだけ早く、少なくとも1冊を読み終えて、各自が、それなりの体系的な知識と経済および経済学の常識をもつようにしておいていただかないと、講義を聞いても殆んどわからない、と思います。もちろん、章末などの問題なども、各自で解答を作っておくことが必要です。

I. 価値（価格）論，II. 分配論，III. 貨幣（所得）論，IV. 厚生経済学（および公共経済学），V. 発展と成長

## 経済変動論

（後期）教授 増井 幸 夫

講義内容

- I 乗数過程
- II 加速度原理
- III 動的均衡過程
- IV 景気転換のメカニズム

## V 貨幣的要因

## VI 経済変動の統計的研究

テキスト：J.R.Hicks, *A Contribution to the Theory of the Trade Cycle*, (The Clarendon Press, 1950, 古谷訳『景気循環論』岩波書店)

参考書：R.A.Gordon and L.R.Klein(eds.)*Readings in Business Cycles*,(Allen & Unwin,1966), M.Friedman, *A Theoretical Framework for Monetary Analysis*,(NBER Occasional paper 112, Columbia Univ. Press, 1971), M. Friedman & A.J.Schwartz, *Money and Business Cycles*, *R.Econ. Stat.*, Vol. XLV No.1, Part 2, etc.

## 経済学史

非常勤講師 佐藤 茂 行

（北海道大学経済学部助教授）

I 経済学説とその思想的背景について、以下の順序で講義する。

- 1) 序 論
- 2) 重商主義の経済諸理論
- 3) フィジオクラートの理論
- 4) 古典経済学の諸理論
- 5) 古典経済学批判ならびに再編の諸理論
- 6) 限界革命の諸理論
- 7) 新古典派の経済理論
- 8) 展 望

## II 参 考 書

白杉庄一郎『経済学史概説』（ミネルヴァ書房）  
杉原・真実編『経済学形成史』（ミネルヴァ書房）  
内田義彦『経済学史講義』（未来社）  
杉本栄一『近代経済学史』（岩波全書）  
馬場啓之助『近代経済学史』（東洋経済新報社）

## III 備 考

テキストは使用しない。一般的な参考書は別記の通りであるが、問題毎のくわしい参考文献は講義中に指示する。

## 経済学特殊問題

非常勤講師 安井修二  
(小樽商科大学短期大学部講師)

講義は、＜『資本論』を読もうとして何度も中断し、そのたびごとにマルクスと自分を嫌悪する＞といった経験をもつ学生を対象として進めます。講義の内容としては一応マルクス経済学の全体系を予定しています。

1. 『資本論』体系(原理論)
2. 『帝国主義論』体系(段階論)
3. 現代資本主義論

なお、第1回からすぐ序論として経済学方法論を検討しますので、準備してきて下さい。

テキストは使用しませんが、参考文献としては以下のものをあげておきます。

マルクス『資本論』ヒルファディング『金融資本論』レーニン『帝国主義論』(以上どの訳本でもよい)

遊部等編『資本論講座』1～7(青木書店) 宇野編『資本論研究』I～V(筑摩書房)

## 経済史概論

助教授 井上 巽

経済史学の基礎理論を主としてイギリス・フランス・ドイツ・アメリカの史実を素材として論述する。講義内容は以下の如き編成の予定であるが、本年度は特に後半部分に力点を置きたいと考えている。

- I 課題と方法
- II 経済発展段階説
- III 封建制論
- IV 封建的危機論
- V 市民革命論
- VI 重商主義論
- VII 産業革命論

テキストは使用しない。参考文献はそのつど指示するが、さしあたり基礎的な文献としてマルクス『資本論』第1巻(特に10～13章, 23, 24章)および第3巻(特に20, 47章)をあげておく。その他、西洋経済史に関する包括

的参考文献としては、大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』(岩波書店) I～IVがある。

## 日本経済史

助教授 長谷川 伸 三

日本の近代社会を根底から規定している日本資本主義の成立過程を中心のテーマとする。日本社会の独自の発展と、欧米資本主義の移植との結合のなかで、日本資本主義の特質がどのように形成されてきたかという点に理解を深めてほしい。本年度は政治過程との関連を重視するとともに、明治前期に重点をおきたい。

1. 幕藩体制社会の解体過程
2. 明治維新の経済構造と政治過程
3. 本源的蓄積過程と自由民権運動
4. 産業革命と産業資本の確立

なお前期レポートとして、近世後期～明治期に書かれた社会科学・社会思想に関する古典的著作を1冊読み、要約と感想を書いてもらう予定。(主要参考書)各自1～2冊をえらび読むこと。

山口啓二・佐々木潤之介著『幕藩体制』、田中彰著『明治国家』(体系日本歴史)日本評論社

永原慶二編『日本経済史』(有斐閣双書)有斐閣

大石慎三郎他著『日本経済史論』御茶の水書房

山口和雄著『日本経済史』(経済学全集)筑摩書房

藤原彰他編『近代日本史の基礎知識』有斐閣

楫西光速他著『日本資本主義の成立』I・II, 同『日本資本主義の発展』I・II・III(東大新書)東京大学出版会

歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史』4.幕藩制社会, 5.明治維新, 6.日本帝国主義の形成, 東京大学出版会

以下はやや専門的なものである。

歴史学研究会編『明治維新史研究講座』全7巻(平凡社), 古島敏雄編『日本経済史大系, 近世』全2巻・楫西光速編『同, 近代』全2巻, 東京大学出版会, 豊田武他監修『論集日本歴史』第7～10巻, 有精堂, 古島敏雄編『日本地主制史研究』岩波書店, 山田盛太郎著『日本資本主義分析』(岩波書店)

## 経済政策

(後期) 教授 望月喜市

## 工業経済学

(前期) 教授 吉武清彦

今年の『工業経済学』は「産業構造論」と「公企業論」とを二つの柱としてみたい。この二つの柱は「社会資本」で結ばれている。この両者の結びつきを、経済・労働・行政・財政の各方面から分析するというのが、今年の講義の一つのねらいである。以下の順序には若干の変更があり得る。

### I 産業構造論

産業構造の意義

技術進歩

独占と競争

独占対策

二重構造

エネルギー経済

### II 公企業論

日本における社会資本の歴史

日本公企業の分類

日本公企業の財政

公企業の管理委員会

公企業の統制と公開性

混合企業の最近の発展

基本的文献 篠原三代平『産業構造論』(筑摩書房, 経済学全集13)(生協または左文字書店にあり) 吉武清彦『英文・日本の公企業』(日本評論社, 昭和48年)(生協・左文字書店及び吉武研究室にあり)

一般的参照文献 宮沢健一・新野幸次郎・斎藤謹造『現代日本経済論』(有斐閣選書)

両角良彦『競争と独占の話』(日本経済新聞)

江見康一・塩野谷祐一『日本経済論』(有斐閣双書)

## 社会政策

(前期) 教授 吉武清彦

第一篇 社会政策史

第二篇 社会政策本質論

第三篇 社会政策各論

参考書 大河内一男・社会政策(総論及び各論)有斐閣

岸本英太郎・社会政策(ミネルバ書房)昭40年

隅谷三喜男・労働経済論(筑摩書房)昭45年

隅谷三喜男・労働経済論(日本評論社)昭40年

大河内一男・社会政策講義(有信堂)昭38年

## 財政学

教授 早見 弘

今年度は以下の順序で講義する。

1. 政府活動の役割と予算政策の目標
2. 公共財の性質
3. 公共財理論における資源配分と所得分配
4. 社会的意志決定と投票方式
5. 課税標準の選択
6. 所得税の構造と累進税
7. 法人税の構造と転嫁問題
8. 間接税の転嫁と帰着
9. 経済活動水準の調整
10. 自動的安定要因
11. 国債管理政策

参考文献: 貝塚啓明・館竜一郎『財政』(岩波書店)

マスグレイヴ・阪大財政研究会訳『財政理論』(有斐閣)

R.W. Houghton(ed.), *Public Finance* (Penguin).

C.M. Allan, *Theory of Taxation* (Penguin).

## 国際経済論

教授 麻田 四郎

1. 古典派貿易理論(比較生産費理論を中心として)
2. 近代的貿易理論(貿易乗数理論を中心として)

### 3. 国際経済体制 (IMF, 世界銀行, ガット, 低開発国……)

(参考書)

麻田・田中共編著『国際貿易論講義』昭46. 青林書院

(麻田・山宮訳) G.M.マイヤー『発展の国際経済学』昭48. ダイヤモンド社

## 国際金融論

教授 足立 禎

国際金融は、戦後確立された学問分野である。従って、その取扱い方も人によってまちまちである。これが国際金融には一定の教科書がないといわれるゆえんである。国際金融は、果してそのような学問であろうか。国際金融とは本来国際的な資金の調達と運用を取扱う業務であるが、そこにはどうしても異種通貨の交換の問題が付随する。これには更に為替管理、先物操作など高度な技術を要する外国為替理論が必要不可欠となる。今日、外国為替の理論を知らずして、国際通貨の諸問題を論ずることはできない。

前半においては、外国為替の理論を主として取扱い、後半においては現実に発生しているカレントな国際金融問題を研究し、将来を展望する。講義に当っては、余り抽象的な理論に走らず、むしろ実際界との動きを中心として論じたい。

教科書	エゴン・ゾーメン著「先物為替の理論」	勁草書房	足立 禎訳
参考書	足立 禎著「外国為替市場」	日経新書	
	足立 禎著「新外国為替論序説」	外国為替貿易研究会	
	足立 禎著「新しい先物為替の実務」	外国為替貿易研究会	
	アインツイヒ著「平価切下げの要因」	文雅堂銀行研究社	
	(リーズ・アンド・ラッグズ)		足立 禎監訳
	アインツイヒ著「先物為替の動態理論」	東洋経済新報社	
		東銀為替部訳	
	ヒンシヨラ編「金価格と国際通貨」	東洋経済新報社	
			芦矢・足立共訳

## マーケティング

非常勤講師 片桐 誠 士

(小樽商科大学短期大学部助教授)

序 マーケティング論の課題・対象と方法

### I マーケティングの成立過程と商業

### II マーケティングの成立と展開

### III 現代マーケティングの特質

### IV 現代マーケティング戦略の展開

参考文献

荒川祐吉・森下二次也編著「体系マーケティング・マネジメント」

(千倉書房)

片岡一郎他共著「現代マーケティング総論」(同文館)

森下二次也監修「マーケティング経済論」上・下(ミネルヴァ書房)

田村正紀著「マーケティング行動体系論」(千倉書房)

## 販売管理

教授 山下 隆 弘

この販売管理は、マネジエリアル・マーケティング、マーケティング管理等の言葉でいわれているものを意味する。そして、これに対して、システム論的立場に立っての展開を試みる。これを行なうに、先ず、概念的な各分析レベルでのシステム理解の発展を追求し、そして、その諸概念を実証的検証可能という意味に於て、オペレイショナルなものにすることを以って特徴とする。

内容は、以下のものを予定している。

- (1) マーケティングとマーケティング管理のシステム理解
- (2) 消費者行動モデル
- (3) 小売店行動モデル
- (4) 個別モデル(新製品開発, 価格決定, 広告問題等のモデル)
- (5) マーケティング情報システム編

(尚, 上記を進めるために, (1)と(2)の間で, モデルビルディング, 特に, システム・シミュレーション・モデルの作り方について, 3~5時間を必要とするであろう。)

履修方法

- (イ) テキストは使用しない。
- (ロ) 何回か10分~20分程度のテスト, 及びレポートを予定している。
- (ハ) 参考書のいくつかは, 次の如くであるが, 講義中にその都度示す。

荒川祐吉, 森下二次也編著「体系マーケティング・マネジメント」

(千倉書房)

久保村隆祐著「マーケティング管理」(千倉書房)  
アムスタッツ著, 山下隆弘訳「マーケティングの計量モデル」  
(新評論社)  
大沢豊著「マーケティング科学と意思決定」(中央経済社)

## 商品学 教授 斎藤 要

商品学とは商品の使用価値を中心とした主体的質的価値を捨象することなく, 商品の社会的価値とかマーケティング時代における市場価値を品質要因, 価格要因, 販売活動要因と関連づけて追求する学問である。

本年度は総論と各論のうち, 品質, 機能論を中心とした総論の大要を述べ重要個別商品の特性については関連説明する予定である。

テキストを使用せず, 必要に応じて文献要綱を印刷したプリントを配布する。

## 商業英語 非常勤講師 北村 正司 (小樽商科大学短期大学部教授)

外国貿易の流れを体系的に展開し, 貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し, 実務に関する基礎的な知識の習得と貿易英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 電報とテレックス
6. 業務用社交文

テキスト

中村新吾著「模範貿易英語」(昭和49年版)(東洋経済新報社)

## 保険論 (前期) 助教授 田村 祐一郎

保険史を中心に講義する。詳細は未定。

参考文献: 近藤文二編『保険の基礎理論』(千倉書房)

## 証券市場論 (後期) 助教授 石原 定和

証券市場論の研究目標信用および信用制度を資本の再生産—蓄積過程との関連のなかでとらえなおし, 信用形態の展開を商業信用—銀行信用のみにとどめず, 擬制資本(信用)をひとつのより高次の信用形態として把握し, 証券市場を含む金融市場を新たな研究領域とした信用論・信用制度論の体系を再構築すること。

参考文献

川口弘・川合一郎共編『金融論講座』全5巻(有斐閣)。信用理論研究会編『講座信用理論体系』全4巻(日本評論新社)。中村孝俊・川合一郎その他編『証券経済講座』全5巻(東洋経済新報社)。渡辺佐平『金融論』(岩波書店)。川合一郎『資本と信用』(有斐閣)。深町郁弥『所有と信用』(日本評論社)。伊牟田敏充その他『証券経済論』(有斐閣)。川合一郎編『日本証券市場の構造分析』(有斐閣)。

## 証券金融論 教授 鈴木 満直

証券金融を証券の金融的側面と理解する。前半においては, わが国の最近のマネー・フロー表をもとに, わが国の金融市場の実態に則して金融市場の制度・機能を明確にしたあと, 金融市場の一部を構成する。証券市場の制度・機能をさらに詳細に講義する。後半においては, 金融市場の価格といわれる利子論および金利構造論を講義する。

テキストは使用しない。

参考書は必要のつど紹介する。

## 企業分析 (2単位) (前期) 教授 鈴木 満直

“Theory of Portfolio Selection”を外国(英語)の文献を使用して講義する。

履修者は, 統計学の基礎的知識とかなりの程度の英語(専門)の力を必要とする。また, 証券金融論の履修者, もしくは単位取得者であることが望ま

しい。

テキストは使用する。プリントを配布する予定。

参考文献は必要のつど紹介する。

## 有価証券論 (2単位) (後期) 助教授 石原定和

## 経営学原理 (前期) 助教授 篠崎恒夫

### I 本科目の位置づけ

本科目は、現代企業経営の運動法則を客観的に解明することを目的とする。その際、現代企業を研究の対象としながらも、現実が過去の歴史によって規定されているかぎり、経営学は歴史的発展法則の下に認識することを要請される。経営学が、商業実践の整序化にその生成の端を求めるとともに、他方、工業経営の原理の体系化がその肉付けを行なって来たことを学ぶであらう。

ところで、本科目を選ぶに際しての手がかりとして、他の諸科目との関連を示す意味で、既に履修していることが望ましいか、または、併行して履修を望む科目を挙げれば、つぎの通りである。

社会科学概論、社会思想史、哲学、商学概論、管理科学概論、  
経済史概論、経済学説史、経済学特殊問題、経営史、簿記学、  
マーケティング。

さらに、本科目の履修者は、経営学説史、企業形態論、管理各論、会計学諸科目、商学諸科目といった諸領域へと発展の途を見出すであろう。

### II 講義方針

「経営」を学ぶにあらずして「経営学」を学ぶのが諸君の目的である。経営学の研究対象は何か、それへの認識方法はいかなるものがあるかを考えながら、経営学が個有に捉える基本的問題を解明する。

### III 構成

1. 経営学の本質と方法
2. 経営学の成立と展開

3. 経営学の基礎概念
4. 経営形態・企業形態
5. 経営者論
6. 人間関係論
7. 意志決定論
8. 企業の社会化

IV 教科書・参考書 1.教科書・馬場克三著「経営経済学」税務経理協会  
2. 参考書：講義において随時指示する。

### V 単位認定

1. 開講第1週目の講義において当科目の単位認定についての指導を行なう。履修希望者全員の出席を要求する。なお、当日は「出席」を取る。
2. 本年度に限り、単位認定の方法は、レポート提出か筆記試験のいずれかを選択して貰う。

## 経営史 (前期) 非常勤講師 渡辺尚 (北海道大学経済学部助教授)

### I 序論 経営史学史

1. 経営史学の生成
2. 経営史学と隣接分野
3. 経営史学の方法

### II 経営環境の史的構造

1. 資本制世界の三極構造
2. 本源的蓄積と社会的分業
3. 市場構造の史的形態

### III 経営形態の史的構造

1. 社会的労働の史的形態
2. 社会的資本の史的形態
3. 経営構造の史的形態

### IV 経営類型と資本循環

1. 商品資本循環と流通の優位
2. 貨幣資本循環と投資の優位
3. 生産資本循環と生産の優位



## V 終 論 日本的経営の史的構造

1. 協業性と非身分性
2. 官僚性と非地域性
3. 他律性と非統統性

(注意)

1. 講義は上記のように5章15節で構成されるが、原則として各週に1節ずつ配分する予定である。
2. 毎週、相当の質問時間を設ける。受講者には筆記よりも、講義内容をその場で理解することが要求される。したがって質問が歓迎される。
3. 2の趣旨からいって出席が重視される。聴講することなく受験する者は決定的に不利になるように試験問題は作成される。
4. 教科書は使用しない。参考文献はその都度指示する。

## 労 務 管 理

教授 伊藤 森右衛門

### LECTURES ON PERSONNEL ADMINISTRATION

- Lecture 1 : Introduction: The Background and  
Development of Personnel Administration.
- Lecture 2 : Personnel Philosophy, Policy, and Function.
- Lecture 3 : Work relationships and Organizational  
Behavior.
- Lecture 4 : Wage Determination and Administration.
- Lecture 5 : Unions and Management
- Lecture 6 : A Perspective of Personnel Administration.

## 生 産 管 理

助教授 中 橋 国 蔵

### A 基本的アプローチ

生産管理を研究するためには種々のアプローチが存在すると思われるが、本講義は、意思決定論的アプローチにたって行なわれる。そして、意思決定論的アプローチにも種々のものがあるが、行動科学的意思決定論ないしヒューリスティック・プログラミングの重要性を認識しなければならない。

講義の順序としては、はじめに総論として、現代経営学における意思決定

論的アプローチや生産管理の基礎概念を概説したあとで、各論にはいる。

意思決定論的アプローチにたって生産管理の各論を講ずるときには、その内容は、いわゆるORや管理科学におおいに依存している。しかし、本講義では、技法志向的ではなく、問題志向的に種々のモデルを考察する。比較的少数の問題に焦点を絞ることによって、ORの基礎コースで扱われるよりも、より現実的で、より複雑なモデルを研究するであろう。数理計画的モデルばかりでなく、ヒューリスティック・モデルも数多く取りあげるであろう。

### B 講 義 内 容

つぎのような項目を講ずる予定である。

#### I 総 論

1. 生産（あるいはオペレーション）概念
2. 管理概念
3. 意思決定概念
4. システム概念
5. 生産管理システム概念

#### II 各 論

1. 販売予測
2. 在庫管理
3. 総合生産計画
4. ライン・バランスング
5. 日程計画
6. プロジェクト・スケジューリング
7. 設備立地・レイアウト

### C 参 考 文 献

特定のテキストは使用しない。基礎的な邦文の参考文献として、つぎのものをあげておく。

占部都美著『企業の意味決定論』。同著『経営学総論』。人見勝人著『生産の意味決定』。村松林太郎著『生産管理の基礎』。吉谷龍一編『生産システム設計ハンドブック』

### D そ の 他

- (1) 講義中および講義後など、積極的な質問を歓迎する。
- (2) 夏期休暇中にはレポートを作成してもらう予定である。

## 財務管理

非常勤講師 坂井種次  
(札幌商科大学助教授)

### I 講義内容

本科目の位置づけ・講義方針・成績評価等については、第1回目の講義時間中に説明するが、今年度の講義内容は大体次のように考えている。

1. 財務管理論の体系
2. 資本調達論
3. 投資決定論
4. 財務計画論
5. 配当政策論
6. 財務管理論史

### II テキスト

河野豊弘『新版財務管理』(ダイヤモンド社)生協で販売。

講義は必ずしも上記テキストの内容と同一ではないが、その場合はプリント等を配布して補う予定である。

### III 参考書

参考書は多数あるので、ここでは基本的な書物のうちから5冊だけを掲げておく。

古川栄一『財務管理』(経林書房)

丹波康太郎『財務管理概論』(有斐閣)

高橋昭三『経営財務論』(森山書店)

J.ウエストン他(諸井訳)『経営財務』(東大出版会)

馬場克三『株式会社金融論』(森山書店)

上記以外の参考書・各論的領域の文献等については、講義の進度に応じてその都度紹介する。

## 産業心理学

助教授 和田 完

産業心理学が包摂する研究領域は非常に多岐におよぶ。この多様なテーマの中から本年度は、産業疲労と労働集団を取りあげる。前者は産業心理学における古典的テーマであり、若干の実験的操作を加味しながら論じられよう。労働集団に関しては、産業心理学という応用科学の制約にとらわれず、

広く社会心理学的視野に立って問題を追跡してみたいと考えている。参考書の類は授業中に随時紹介する。

簿記学 (後期) 非常勤講師 田中良三  
(小樽商科大学短期大学部講師)

複式簿記の原理を中心として講義するが、時間に余裕があれば伝票会計、行列簿記なども取り上げる。なお、複式簿記の原理を理解するには、簿記技術の習得が不可欠であるから記帳練習をしてもらう。

テキスト

沼田嘉穂「簿記教科書9訂版(記帳練習帳を含む)」(同文館)

黒沢清「簿記会計I」(一橋出版)(初心者のために)

参考書

片野一郎「簿記の手ほどき」(同文館)

片野一郎「新稿簿記精説」(同文館)

戸田義郎「簿記」(評論社)

山柁・飯野・染谷共編「簿記原理」・「上級簿記」(有斐閣)

高寺貞男「簿記の一般理論」(ミネルヴァ書房)

簿記演習 非常勤講師 渡辺和夫  
(小樽商科大学短期大学部講師)

テキスト: 飯野・山柁・染谷編「上級簿記」(講座簿記会計第2巻)(有斐閣)

簿記についてひととおりの理解をしている者を対象として、さらに複雑な内容の問題を取り扱う。特殊売買に関する会計処理および株式会社会計を中心として、できるだけ幅広く講義したい。とりわけ会計学との関連が重視される。講義の内容を確実なものとするために練習問題も必要に応じて取り入れる。

会計学 非常勤講師 石河英夫  
(札幌商科大学教授)

I 会計学の概念

II 会計学の本質・職能

- Ⅲ 会計理論の展開
- Ⅳ 企業会計の基礎的前提
- Ⅴ 企業会計原則の生成・発展
- Ⅵ 企業会計の一般原則
- Ⅶ 損益計算書原則
- Ⅷ 貸借対照表原則

[注] (1) 参考文献は講義の中で示す。  
 (2) 開講時に会計学を中心としたガイダンスを行なう。

**管 理 会 計** (集中講義) 非常勤講師 溝 口 一 雄  
 (2単位) (神戸大学経営学部教授)

I 総 説

- 1. 管理会計の発展・過程
  - (1) 科学的管理法以前の管理会計
  - (2) 科学的管理法の成立と管理会計
  - (3) 第2次大戦後の管理会計
- 2. 管理会計の体系
  - (1) 計算技法による体系
  - (2) 職能領域による体系
  - (3) 経営管理による体系
- 3. 管理会計の特質
  - (1) 財務会計と関係
  - (2) 情報システムとしての管理会計
  - (3) 管理会計論の学問的性格
- 4. 管理会計上の基礎的諸概念
- 5. コントローラー制度
  - (1) 発展過程
  - (2) 現代的意義

II 短期利益計画

- 1. 計画の領域と短期利益計画
- 2. 利益計画と利益目標
- 3. 利益計画の構造

- 4. 利益計画の方法
- 5. 多品種生産企業の利益計画
- 6. 受注生産企業の利益計画

III 予算統制

- 1. 予算統制の前提
- 2. 企業予算の体系
- 3. 予算編成における問題点
- 4. 予算統制の実施上の問題点

IV 事業部制会計

- 1. 責任会計としての事業部制会計
- 2. 事業部制における利益計画
- 3. 内部振替価格の決定と運用
- 4. 本部費・共通費の配賦
- 5. 社内金利制度
- 6. 内部資本金制度

(使用テキスト)

溝口一雄編著「管理会計講義」(青林書院新社)

外 国 書 講 読

教授 山 下 隆 弘

Patrick Rivett, Principles of Model Building-The Construction of Models for Decision Analysis (Wiley, 1972) を講読する。  
 テキストはコピーして配布する。

管 理 科 学 II

助教授 沼 田 久

ゲームの理論 (Theory of Games) を1年間講義する。ゲームの理論は経済学, 統計学, 数学, 社会学, 心理学, 政治学等広い範囲にわたって大きな影響を与えている。またいくつかの室内ゲームもこの理論で考察されている。1年間かかってもこの大きな理論の全容を述べることは難かしいが, なるべく平易かつ体系的に講義をしたいと考えている。教科書等は未定。

管理科学特講Ⅱ・Ⅲは、近代の数理的経営管理に用いられるオペレーションズ・リサーチ(OR)など、<sup>1)</sup>「経営科学」、一場合によっては<sup>2)</sup>「数理科学」と呼ばれている数学手法からいくつかを選び、その理論と実際について講義するものである。とくにORは近年のシステム工学(SE)の基幹をなすものでもあって、自然科学・人文科学を問わず広く利用されている境界領域の学問であり技術でもある。これは確率論、数理統計学を中心に、待合せ、在庫、取替、線形計画法、シミュレーション・ゲーム論、PERT法、情報(通信)理論、実験計画法などの手法を含んでいる。これらは数学における工具あるいは工作機械、調査分析のための測定機器の役割を果すもので、<sup>3)</sup>「待合せ」などの名称はその手法の発見の動機をなした。あるいはモデルとなった現象とか問題、また用途に因んで名付けられたものである。そして、あたかも工具におけるようにその用途にはかなりの融通の効くものであるがある種の理工学的分野のようになにかまとまった理論体系をなしているわけでもない。したがって、どの手法から学んでも良いのであるが、数理統計学の履修の度、一般的な理解の容易さ、社会的な利用度、将来性などを考慮して、特講Ⅱ・Ⅲあわせて4個の手法を選んで講義する。なお、この選択に当っては、開講時にまず手法全般についての解説をした上で、受講生諸君の希望を聴取したい。教科書としては、(やや古くなった感じはあるが)、収録内容と価格面から考慮して、佐治・白根らの<sup>4)</sup>「オペレーションズ・リサーチ理論と実際」を使うこととするが、適宜、プリントを作成してその欠けたるところを補なうものとする。

## 事務機械化

助教授 山田一生

現代のマネジメントは、激動する環境の中で、たえずその環境の変化に適応するための経営革新を遂行しなければならない状況におかれている。本来事務機械化とは、事務作業の機械化を意味し、事務機械化の発展は、1)事務作業そのものの解明。2)事務システムの検討。3)管理活動のルーチン化などの点からアプローチすることができる。ところが事務の本質上からして、次第に事務機械化が発展すると、一定の段階で質的に転化し、マネジメ

ント職能の部分的機械化現象が必然的に生じるのであり、いわゆる経営機械化へと移行するのである。

したがって、現代の事務機械化は、単に事務作業の機械化のみを対象とするのではなく、特に現実の企業経営における情報処理機能の重視という観点から、管理のための準備業務を担当する管理事務機能の機械化、自動化を志向するものとなる。このように、現代の事務機械化は、経営管理と密接不可分の関係にあり、今日的にはシステムズ・アプローチの適用によって、さまざまな管理システムへのアプローチを登場させている。管理情報システム(Management Information Systems)はもとより、そのアプローチの一方法にすぎないのであるが、企業経営における情報システムの機能が重視されるとともに、単に情報を生産するだけではなく、豊富な情報の中から真に経営意思決定に役立つ情報を検索し提供するシステムとして究明される。すなわち、管理情報システムは、経営管理へのシステムズ・アプローチとして展開されるのである。

テキスト：山田一生著『管理情報システム講義』(池上書店)

参考文献：参考文献は多数あるので、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

## 応用数学(代数)

助教授 沼田久

管理科学の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形代数が数理計画法や経済学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論Ⅰ、応用数学(解析)とともに、管理科学科の学生は必らず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手、不得手とはあまり関係はない。ただし若干の数学的センス(論理的能力といってもよい)またはある程度の根気のあることが望ましい。

教科書は後日掲示等で指示する。

## 応用数学(解析)

非常勤講師 鈴木輝雄  
(北海学園大学講師)

管理科学、ORに関係ある数学のうち、解析的な部分について講義を行な

う。微積分学の基本事項および初歩の確率論は既知として講義をすすめる。内容は以下の通りであるが多少の変更があり得る。

スチルチェス積分, ラプラス変換・フーリエ変換, 特殊関数, 差分方程式  
(前期)

マルコフ過程, 待ち行列論 (後期)

## 応用数学 (統計Ⅱ)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト: 未定

## 応用数学特講Ⅰ

(前期) 非常勤講師 山口 忠  
(北海道大学工学部講師)

## 応用数学特講Ⅱ

(後期) 非常勤講師 山口 忠  
(北海道大学工学部講師)

## 計算機論Ⅰ

助教授 樋口 透

電子計算機が単なるソロバンの延長としてではなく、あらゆる情報処理の中心的役割を果たしていることは周知のことであろう。つまり、単なる道具としてというよりは、頭脳の一部として、さらに、組織化された頭脳集団としての機能を果たすに至っているといえよう。非常に単純な原理に基きながら、複雑な情報処理を可能ならしめている背景を、その動作原理を知ることにより、また実際にプログラムを作成し、計算機に実行させてみることにより学んでほしい。プログラミング (プログラムを作成すること) とは人間が計算機にある問題を解決させようとするとき、(見かけ上) その計算機に備わっている能力により問題解決に至らしめる一連の動作指示を与えることである。このような動作指示はアルゴリズムと呼ばれ、それはプログラミング言語により計算機に与えることができる。我々は(機械にではなく) 人間に指示を与えるときに用いるあいまいさと冗長性に富んだ自然言語に慣れているので、これとは対照的なプログラミング言語は一寸とっつきにくいかも知

れない。したがって、遅刻、欠席等による情報(知識)の欠落は学習上決定的なハンディになることを忘れずに。

教科書 『教養電子計算機』 野崎昭弘 (サイエンス社)

参考書 『電子計算機と人間』 ドナルド・G・フィンク著高橋秀俊・石田晴久(訳) (河出書房)(SCIENCE STUDY SERIES 19)

## 計算機論Ⅱ

助教授 戸島 熙

本年度は「言語処理プログラム」の内部構造を解説する。すなわち、前半ではアセンブラの設計とアルゴリズムを詳しくのべ、後半ではその基礎のうえにたってコンパイラの論理と技法を説明する。また、管理プログラム(OS)にも言及する。なお、講義と並行してできるだけ演習を行なう。参考文献としては、

J.J. Donovan; *Systems Programming*, McGraw Hill, 1972. が適当である。

## 憲法

非常勤講師 秋山 義昭

(小樽商科大学短期大学部助教授)

憲法は、一国の法体系の頂点に位置する最高法規であって、国家統治の基本的体制と権力行使の根拠、限界を定めたものである。憲法は、条文を知って、それを理解したとすべきではない。むしろ、憲法自体の持つ価値原理、その下位法による具体化、政府・裁判所によるその解釈・適用を通しての具体的な運用を多面的に検討する必要がある。かかる観点から、講義では判例を多く引用することにより、現実の生きた憲法を理解することに努めたい。

テキスト: 伊藤正己『憲法入門』(有斐閣双書)

## 労働法

(前期) 非常勤講師 保原 喜志夫

(北海道大学法学部教授)

労働法は市民法の修正の上に成り立っています。したがって、労働法を理解するためには、その基礎である民法や行政法をあらかじめ勉強しておくことが必要です。まだこれらの科目を履修していない人は、できれば労働法と

併行してこれらの科目を聞くことを望みます。

しかし、そうはいつでも、諸君は法律を専攻しているわけではありませんから、自分の履修計画やカリキュラムの関係で、なかには法律科目にそれ程力を入れることができない人もいるものと思われまますので、私の講義では詳細な法律解釈よりは、むしろ労働法の基本的な骨組みを繰返して述べることにし、必要に応じて、民法・刑法・行政法のお話もして行きたいと思ひます。

そんなわけで、法律学になじみのうすかった人でも、安心して受講して下さい。もっとも、こうはいつでも、試験がやさしいとは限りません。

講義では、特定の教科書を用いません。下記の参考書の使い方については最初の講義のときにお話しをしますので、その時には、この「教授要目」を持参して下さい。それまでは参考書を買う必要はありません。

#### 参考書

石井照久著『(新版)労働法』(弘文堂)

外尾健一著『労働法入門』(有斐閣)

藤田若雄著『日本労働法論』(木鐸社)

『労働法の判例』(ジュリスト別冊)(有斐閣)

## 民法 I 助教授 神田孝夫

民法は資本主義経済体制をささえるもっとも基本的な法であり、数多くの重要な諸制度に関する規定をもつが、講義では、これらの諸制度の意義と機能がどこにあるのかを具体的に解明することに重点がおかれる。

昨年度は、民法典の編成順序に従わずに講義してみたが、本年度は従前の慣行に復帰し、第I編総則、第II編物権を中心としたい。

第III編債権は明年度の民法IIで聴講されることを希望する。

教科書：水本浩・甲斐道太郎編『民法(総則物権)講義』(青林書院新社)

参考書：遠藤浩ほか編『民法(1)(2)(3)』(有斐閣)が手ごろ、他は講義の際に紹介する。

六法全書は不可欠、どの出版社のものでもいいが、条文のコメント、判例などが付記されている六法は、試験の際に持込みが認められないことを承知されたい。

## 民法 II (前期) 非常勤講師 藤岡康弘 (北海道大学法学部助教授)

不法行為法の全般にわたって、現代的課題をまじえながら講義を行なう予定である。テキストとしては、有斐閣双書民法(7)事務管理・不当利得・不法行為を用いる。

### 助教授 神田孝夫

昨年度の民法Iで講義しえなかった物権変動論、債権の担保、各種の契約を中心に講義する。

教科書は我妻栄『民法大意上巻・中巻』(岩波書店)

参考書としては、遠藤浩ほか編『民法(2)一(6)』(有斐閣)が手ごろである。

## 商法 I 助教授 青竹正一

商法Iは主として会社法を対象とする。企業は各個人の独力でも経営できることはもちろんであるが、現今の主要な企業のほとんどが会社の形態をもって経営されていることは周知のところであって、近代の資本主義経済は会社の制度をはなれては考えられないといつてよい。この共同企業の典型的形態である会社に関する法規の総体が会社法である。そして、会社法は組織をめぐる個体間(会社・社員・会社債権者)の利益調整を行なうことを主たる任務とする。

講義は教科書に従って進めていくが、重要な点については判例をとりあげたり設問を提起して説明していく。履修者は予め教科書及び関係の判例を読んでおくことが望ましい。六法は必携のこと。

教科書：鈴木竹雄著『新版会社法』(弘文堂)

参考書：『商法の判例』(ジュリスト別冊)

『新版会社判例百選』(ジュリスト別冊)

## 商法 II 非常勤講師 石原全 (小樽商科大学短期大学部助教授)

手形法、小切手法を講ずる。手形、小切手は当然の有価証券であり、権利

が証券に化体し、証券の移転とともに権利も移転する。そこに、取引の簡易・決済手段性・流通性・技術的性格が濃厚に発現し、強行法性、取引安全の強調、種々の手形理論が存在するのである。本年度は約束手形を中心にし、為替手形、小切手については簡単に触れる。

## 国 際 法 (後期) 助教授 大 谷 良 雄

本年度の講義内容は次の通り。

序

### I 条 約

1. 条約の概念
2. 条約の当事者
3. 条約の成立手続
4. 条約の効力
5. 条約の消滅

### II 国際責任 (国際不法行為)

1. 国際責任の概念
2. 国際責任の成立
3. 国際責任の解除

### III 国際紛争の処理

1. 国際紛争の諸様相
2. 国際紛争の平和的処理
  - (a) 紛争当事者間の外交交渉
  - (b) 国際調停
  - (c) 国際裁判
    - (i) 仲裁裁判
    - (ii) 司法裁判

### 参 考 書

- 大平善悟編著. 現代の国際法 (有信堂).  
高野雄一著. 国際法概論 (下) (弘文堂).  
田畑・高林編. 国際条約資料集 (有信堂).

## 国 際 機 構 論

(後期) 助教授 大 谷 良 雄

序

### I 普遍的国際機構—国際連合—

1. 国際連合の成立
2. 国際連合の構造
3. 国際連合の機能
  - a 国際協力機能
  - b 平和維持機能

### 4. 国際連合の専門機関

### II 地域的国際機構—欧州共同体を中心に—

1. 地域的国際機構の意義
2. 欧州国際機構
  - A. 政府間機構
    - a OEEC-OECD-EFTA.
    - b 欧州審議会及びNATO.
  - B. 超国家的機構
    - a 欧州共同体の成立
    - b 欧州共同体の構造
    - c 欧州共同体の機能 (共同市場の概念を中心に)
    - d 欧州共同体法
      - イ 法源, ロ 各国々内法との関係, ハ 執行の問題
    - e 欧州共同体の対外関係

- 参考書 高野雄一著. 国際組織法 (有斐閣)  
高野・筒井著. 国際経済組織法 (東大出版会)  
金田近二編. 国際経済条約集 (ダイヤモンド社)

## 6 教 職 科 目

### 教 育 原 理

教授 田 中 昭 徳

(「教育学」のところを参照すること)

### 教 育 心 理 学 (後期)

(4単位) ——うち2単位分は集中講義——

非常勤講師 若 井 邦 夫

(北海道大学教育学部助教授)

### 商 業 科 教 育 法

(前期) 非常勤講師 渡 辺 羊 三

#### I 商業教育の概念

- 1 商業教育の意義
- 2 商業教育と他の教育
- 3 商業教育の目的とその内容
- 4 商業教育の目標

#### II 商業教育の変遷

#### III 商業教育と職業指導

#### IV 商業教育の機関

#### V 教育課程

- 1 教育課程の基本原則とその編成
- 2 商業教育の編成とその変遷

#### VI 商業に関する教科目

類型制と小学科制 (情報処理教育)

#### VII 学習指導法

- 1 学習指導の意義およびその目的
- 2 商業科の学習指導

#### VIII 評 価

- 1 評価の意義およびその目的

#### 2 商業科における評価の実際

#### IX 商業教育の施設・設備

参考書：大埜隆治 高等学校新商業教育論

武市春男 新版商業教育論

初又才次郎 高等学校商業科教育法

奥村恒夫 新訂商業教科教育法

文 部 省 高等学校学習指導要領解説 (商業編)

文 部 省 改訂高等学校学習指導要領

実教出版株式会社

国 元 書 房

理 想 社

大 明 堂

一橋出版KK

大蔵省印刷局

### 英 語 科 教 育 法

教授 脇 田 勇

指導技術から見た

#### ① 英語教育の諸問題

納谷友一著 研究社 ¥530

#### ② 高等学校学習指導要領解説

外国語編 東京書籍 ¥95

(参考書)

研究社 英語教育事典 ¥1,500

### 教 育 実 習 (集中講義)

教授 麻 田 四 郎

教授 伊 藤 森 右 衛 門

教授 脇 田 勇

助教授 樋 口 透

### 教 育 史

教授 田 中 昭 徳

題目「日本における商業教育制度の発展とその思想」

#### I 封建徳川時代における商人とその教育

(1) 儒教道徳における「商業蔑視」の思想



(2) 石門心学と「商業肯定」思想の展開

(3) 商家の「家訓」

II 明治期における近代商業教育制度の発展とその思想

(1) 福沢諭吉の商業立国論

(2) A. A. シャンドと日本銀行学局

(3) 森有礼と商法講習所

(4) 明治17年の「商業学校通則」制定

(5) 井上毅文相の商業振興計画

(6) 佐野善作と商科大学運動

テキスト：石田梅岩著『都鄙問答』（岩波文庫1077）

職業指導

非常勤講師 石井 茂

（北海道教育大学教授）

1. 職業指導の問題所在——問題提起
2. 職業指導と進路指導
3. 職業と教養
4. 職業指導の史的考察
5. 職業指導の理論
6. 企業と教育
7. 経済計画と教育
8. 適性，心理学的諸検査
9. 職場の人間関係
10. 職業指導の実践をめぐる問題

英語（上級Ⅲ）

助教授 宮岡 伯人

テキスト：米国の言語学者，人類学者による平易な図書，論文（プリント），約10点を予定。

英語（上級Ⅳ）

講師 君羅 久則

Advanced English W. Shakespeare: *The Merchant of Venice*.  
(The Arden Edition)

Methuen, Kinokuniya Reprint. (紀伊国屋, ¥550)

(参考書) C. T. Onions: *Shakespeare Glossary*. Kinokuniya Reprint,  
¥550

大塚高信著「シェイクスピア手帖」(研究社, ¥200)

英語学(Ⅱ)

非常勤講師 北 市 陽 一

(北海道大学文学部助教授)

前期は，文法論とFrank Palmer: *Grammar*, Penguin Books, 1971を  
読みながら検討する。

後期は，共時的立場から見た英文法をR. Quirk & S. Greenbaum: *A  
University Grammar of English*, Longman, 1973によって学ぶ。授業は  
輪読形式で行なう。

英文学(Ⅱ)

助教授 永 原 和 夫

(「英文学」のところを参照すること)

### Ⅲ 研究指導要項

#### 麻田教官担当研究指導

- 1 研究主題  
国際経済理論および政策
- 2 指導要領  
3年次：原書（英文）の輪読。原書講読力を養う。  
4年次：個別テーマによる卒論指導
- 3 テキスト未定
- 4 志望要件  
(イ) 経済学概論履習済みの者  
(ロ) 経済原論履習済みの者、英語に自信ある者。  
(ハ) 11月（募集のとき）に英語の試験を行う。

#### 足立教官担当研究指導

- 1 研究主題  
国際金融にかんする諸問題……国際通貨制度、国際金融、為替市場の実態および外国為替取引の理論と実際。
- 2 指導要領  
(イ) 全般……小樽商科大学の卒業生として恥かしくないだけの国際的視野と語学力をもつことに重点を置く。なお、この研究指導は在学中のみならず、卒業後も、実業界において必要に応じ、ケース・バイ・ケース行なう。  
(ロ) 3年次……国際金融の基礎理論と実際およびこれら諸問題にかんする語学力の養成  
(ハ) 4年次……個別的研究指導（ユーロ・ダラー、金問題、SDR、先物為替、各国為替制度など）および卒業論文
- 3 使用テキスト  
(イ) 3年次……講義のはじまりに指示する。  
(ロ) 4年次……プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

- 4 申し込み条件  
(イ) 語学力を有し、かつ  
(ロ) 将来国際企業で活躍したいと思う者
- 5 決定方法  
簡単な語学テストおよび面接の上決定

#### 長谷部教官担当研究指導

1. 研究主題 日本経済および北海道経済の統計的分析
2. 指導要領 3年次前半はテキストの輪読、その後は個別研究テーマによる報告。

#### 早見教官担当研究指導

- 1 研究主題 予算政策の理論的実証的分析。
- 2 指導要領  
イ 3年次では、以下をテキストとし、財政学の問題、方法について修得させる。  
ロ 4年次では、各自の研究テーマにそって、報告と討論を通じて、卒論作成にむける。  
ハ 経済理論の知識と英語力が十分でないと、学習の効率が悪いので、この点に留意されたい。
- 3 指導テキストおよび参考書  
Richard & Peggy Musgrave, *Public Finance in Theory and Practice* (McGraw-Hill, 1973 ¥3,790)
- 4 申し込みの条件 経済学概論は履習済み（2年までに）のこと。英語に自信ある者。

#### 久次教官担当研究指導

- 1 研究主題 統計学の数理的方法論に主点をおいた研究
- 2 指導要領 3年次下記のテキストの講読。  
4年次前半は追加文献の講読。後半は卒論の準備に重点をおきます。

### 3 指導テキストおよび参考書

テキスト：D. A. S. "Statistics : An Introduction", John Wiley (リプリント版あり)

参考書：A.M.Mood & F.A.Graybill, "Introduction to the Theory of Statistics". McGraw-Hill, 2nd ed. (1963) (リプリント版あり)

### 4 申し込みの条件

「統計学」を履修中又は履修済みの者。

数理的、論理的な思考力と、英語の読解力のある者。

### 5 選考の方法

簡単なテストと面接を行いません。

## 藤井教官担当研究指導

卒業論文の作成に重点をおき、そのための基礎になるような論文や図書などを、はじめに読みます。最近のゼミナールで読んだものは、つぎのようなものです。ケインズ『一般理論』，クラワール『貨幣理論』，スティグラー・ボールディング『価格理論』，モリシマ『マルクスの経済学』，ハーコート『ケンブリッジ論争』なお予定しているものは、以上のほか、ヒックス『オーストリア学派の資本理論』があります。なお、いずれも原語で読みますから、語学的な基礎能力を必要とします。所属学生の研究テーマは多岐ですが理論経済学関係のものが大部分です。

## 増井教官担当研究指導

### 1 研究主題

経済変動，経済成長過程の理論的・実証的分析

### 2 指導方針

全 般：日本経済発展の100年の過程を全分野にわたって体系的に把握し経済発展の源泉，市場経済のメカニズム，政策の機能を批判的に検討し，個別研究テーマを卒業論文に結実させるよう努力する。

3年次：基礎的文献の講読

4年次：個別研究テーマの報告・討論

3 テキスト：江見康一・塩野谷祐一編『日本経済論』（有斐閣双書）を読むことから始める。

## 吉武教官担当研究指導

1 研究主題 社会政策と工業経済をめぐる諸問題（今年は特にマーシャル経済学をめぐり重点的に研究する）

2 指導要領 (イ) 全 般

(ロ) 49年度マーシャルの『経済学原理』の輪読及び卒論指導

(ハ) 50年度下記テキストの輪読

3 使用テキストおよび参考書

Alfred Marshall, Principles of Economics (Eighth ed.; London : Macmillan & Co.Ltd.,1964), Papermac.

(邦貨約 円1720)。

4 申し込みの条件 マーシャル『経済学原理』を昨年から引続き読む。申込みの条件として 1) 英語の実力あること。

2) 経済学概論の成績良好であること。

3) 欠席せずに真面目に出席を続けること。

5 選考の方法 (面接・テスト等)

(1) 英語の試験を下記により行なう。

(2) 上のテストの結果と経済学概論の成績を勘案して決定する。

6 面接，テスト等の日時，場所

7 その他 参加を認められた者であっても，将来無断欠席連続3回行なった場合，除名されることがありうる。

## 井上教官担当研究指導

1 研究主題：西洋経済史研究。特に本年度は19世紀イギリス経済史研究に力点を置く。

2 指導要領

(イ) 全 般：研究文献，特に外国文献の読み方に習熟することは，外国史研究の大前提であることを銘記されたい。各自の研

究(卒業論文)は早期に準備にとりかかるよう希望する。

- (ロ) 3年次：19世紀イギリス経済史に関する研究文献を読む。テキストは、E. J. Hobsbawm, *Industry and Empire (The Pelican Economic History of Britain, Vol. 3)* この文献は、最近わが国でも注目されつつあるイギリスのマルクス主義歴史家ホブスボームによるイギリス近・現代史研究の一成果を示すものである。
- (ハ) 4年次：前半は昨年度に続いて、S. B. Saul, *Studies in British Overseas Trade 1870—1914* を読む。後半は卒業論文作成指導。
- (ニ) その他：学問的精神の堅持を期待する。

### 長谷川教官担当研究指導

- 1 研究主題：日本経済史(近世～近代)の分析方法
- 2 指導要領：まず前近代・近代を通しての経済史の分析方法を学んでいきたい。ついて明治維新前後の時期の具体的分析に進みたい。各自の研究(卒業論文)テーマは、3年次生の終りまでに決めればよい。日本近世・近代経済史のなかから個別テーマを設定することが望ましい。
- 3 使用テキストおよび参考書：49年度テキスト、芝原拓自著『所有と生産様式の歴史理論』(青木書店)。同参考書、栗原百寿著『農業問題入門』(青木文庫)、大塚久雄著『共同体の基礎理論』(岩波書店)。以後は日本近世・近代の政治・経済史の主要な個別論文を読む予定。
- 4 申し込みの条件：「経済史概論」「経済学特殊問題」の履修者。研究・ゼミへの熱意と自己の研究課題設定への意欲を期待したい。
- 5 選考の方法：希望者が多ければ、簡単な論文テストを行なう。
- 6 その他：マルクス主義経済学の基礎、および日本近世・近代史の基本的知識を各自適当な書物で学んでおくこと。

### 伊藤教官担当研究指導

- 1 研究主題  
現代企業におけるトップ・マネジメントについて体系的な研究を行

う。

- 2 指導要領  
第3年次は原書を講読しながら、マネジメントの基礎理論を学習する。第4年次は、前年度のテキストの講読を継続するが後期は卒論の指導を中心に個々のテーマでディスカッションする。
- 3 指導テキストおよび参考書  
ゼミ決定のさい指示する。
- 4 申し込みの条件：商学概論、経営学原理、経済原論を履修していること。

### 斎藤教官担当研究指導

- 1 研究主題：商品の使用価値を中心とした社会的価値及びマーケティング時代における市場価値を品質要因、価格要因、流通活動要因と関連づけて追求する。
- 2 指導要領  
(イ) 全般：上記の主題に関する原書や論文を講読し、報告・討論を通じて理解を深める。  
(ロ) 49年度：商品の価値論、商品政策に関する論文を講読し、基礎的知識の修得とその応用能力を養う。  
(ハ) 50年度：個人テーマによる文献講読と卒業論文の指導
- 3 使用テキスト  
品質基礎理論：商品政策に関する参考書  
L. ABBOTT: *Quality and Competetion* (1965)
- 4 申し込みの条件  
2年次終了時において語学(第1, 第2外国語)及び基礎教育科目の所要単位を取得した者。
- 5 決定の方法  
テストおよび面接による。

### 鈴木教官担当研究指導

- ・研究主題 金融論(広義)

○指導方針 上記の分野に関する諸文献の講読を通じて、金融理論に関する理解を深める。

3年次：金融理解の基礎を考察する。

4年次：卒論指導。

○使用テキスト テキストについてはゼミナリス滕の意見を尊重して決定する。なお、過去において使用したテキストは次のとおりである。R.Harrod, Money.

M.Friedman, Optimum Quality of Money.

J.M.Keynes, The Means to Prosperity.

F. Machlup, Internatinal Moneytary Problems

○履修要件 英語の力があること。

研究意欲があること。

### 石原教官担当研究指導

#### 1 研究主題

金融・資本市場の研究

#### 2 指導要領

(イ) 上記分野にかんする基礎的文献の検討

(ロ) 49年度 貨幣の本質と機能・商業信用と銀行信用

(ハ) 50年度 (前期) 擬制資本信用・株式会社制度の研究

(後期) 各自のテーマによる卒論の作成・報告

### 篠崎教官担当研究指導

#### 1 研究主題

管理組織論の客観的批判的分析

とくにアメリカ行動科学的組織論の流れを中心として取上げる。

#### 2 指導要領

バーナードおよびサイモンの理論を軸に学説史的な研究視点を持つように指導する。上記2名を含めて、行動科学的理論の研究書を十分に読み込んで、その論理構造の解明に当たってもらう。

#### 3 テキストおよび参考書

C. I. バーナード著田杉競監訳「経営者の役割」ダイヤモンド社、

H. A. サイモン著松田ほか訳「経営行動」ダイヤモンド社。

#### 4 その他

(1) 「経営学原理」の講義内容を熟知する意志の強固なること。

(2) ゼミ活動には集団行動としての約束事がある。それに当然のこととして適応しうる素直で柔軟な体質の持主であること。

### 田村教官担当研究指導

### 中橋教官担当研究指導

#### 1 研究主題

① 企業の意味決定論

② 生産管理論

③ ヒューリスティック・プログラミング

#### 2 指導要領

イ 全般：意思決定論的経営学の研究

ロ 49年度：下記テキストの講読、報告と討論。まず、意思決定論的経営学の重要な基礎概念を理解したあとで、企業の生産意思決定問題にたいする数学的手法の適用を学ぶ。

ハ 50年度卒論作成。各自、希望する研究テーマを選択し、それに関してはスペシャリストになること。関連する重要な外国文献を少なくとも1冊、完全にマスターする。

#### 3 指導テキスト

① H. A. Simon, *The New Science of Management Decision*, Harper & Row, 1960.

② C. C. Holt, et al., *Planning Production, Grventories, and work Force*, Prentice-Hall, 1960.

#### 4 申し込みの条件 ①は必須条件。②, ③, ④はいずれか。

① 研究意欲が旺盛であること。

② 語学および数学に堪能であること。

- ③ 広い視野をもち、活発に討論に参加すること。
- ④ 何らかの特技(スポーツ, その他)をもつこと。

#### 5 その他

- ① 大学の専門課程での生活は、ゼミナールでの報告・討論・卒論作成およびゼミナリスティンを中心とするその他のインフォーマルな活動が中核を占めることを十分に認識すること。
- ② 下記の文献を第3年次の夏休み終了時までまでに精読すること。  
占部都美編著『企業意思決定論』昭44. 同編著『現代経営とコンピュータ』昭47. 西田耕三著『企業行動科学の基礎』昭和44. 同著『意思決定とシミュレーション』昭45, 吉原英樹著『行動科学的意思決定論』昭44. いずれも白桃書房

### 和田教官担当研究指導

行動障害を広く産業心理学的視野から接近してみようと思う。行動障害の病理を捉える方法に、患者の所属する集団とその文化を坐標としてアプローチするやり方がある。労働集団もまた行動障害の病理に関わる要因である以上、この種の社会病理学的研究が可能である。本年度は、行動障害の社会・文化的要因を現代の労働者が置かれている社会環境の中から抽出、分析してもらいたいと考えている。

ゼミナールの進め方としては、三年次は主としてテキスト風の文献を多読してもらおう。文献はできるだけ担当教官が用意するが、必要とみとめる小冊子は随時購入してもらおうことになる。4年次には各人のテーマがきまり次第、関連する雑誌論文の要旨の報告を中心に進められよう。

### 清水川教官担当研究指導

### 戸島教官担当研究指導

- 1 研究主題  
TSSの機能をもつOSの開発。
- 2 指導要領

最初に既存のOSの仕様を検討して設計を行ない、外部仕様、内部仕様を明確にし、それらに従って開発作業をすすめる。

#### 3 参考文献

必要に応じて内外のOSに関するマニュアルを参考にする。

#### 4 その他

1週間に特定の数時間をOSの開発作業にあてればOSが出来るというものでもない、時間的拘束がないのがのぞましい。計算機論I, IIを受講していることが必要である。また、プログラミングの演習を目的としていないので、この点をよく注意してほしい。

### 沼田教官担当研究指導

- 1 研究主題 つぎの3つのうちからどれかを選ぶこと。
  - (A)線型計画法：ORにおける代表的手法。関連分野が多く経済学等応用が広い。
  - (B)組合せ数学：最近注目されている「有限」であることの困難を解決しようとする数学。OR, 報情検索等に応用され始めている。
  - (C)数理言語学：言語の文法, 同形異義語, 表現, 解釈の行為等の数学的取扱いについての入門
- 2 指導要領
  - 3年次：テキストの内容を正しく読みとる訓練および選んだ主題についての基礎的知識, ものの考え方を身につける。
  - 4年次：3年次における勉強の基礎の上に, 各自のテーマをしぼり, できるだけ早期に卒論の作成にとりかかれるようにしたい。
- 3 指導テキストおよび参考書
  - (A)Linear Programming, G.Hadley, Addison-Wesley, ¥1,900
  - (B)組合せ数学入門 I, II, C.L. Liu, 伊理正夫, 伊理由美訳, 共立出版 I…¥850, II…¥1,000
  - (C)言語と数学, 水谷静夫, 森北出版 ¥900
- 4 申し込みの条件

通常の年限で卒業する見みの十分ある者。

## 5 その他

(イ)これまでの例では、私のゼミには社会科学があまり好きになれない人が多く集まる傾向があります。

(ロ)パズルやクイズを考えることの好きな人を歓迎します。

(ハ)人は多くの場合知らず知らずのうちに様々な偏見や先入観を持っており、人を見かけで判断したりし勝ちですが、そういう傾向を自分のなかから除去する努力を続けることが学問をする上で最も大切なことだと私は考えています。

## 樋口教官担当研究指導

### 1 研究主題

システムに関する基本概念、方法論ならびに応用について研究し、さらに具体的なモデル作成をも行う。

### 2 指導要領

49年度：テキストの輪読

50年度：前年度学んだ一般理論に基づいて、各自、関心のあるテーマ（たとえば、言語システム、オートマタ理論、企業システム・モデル、ソーシャルシステム・モデル）についてより具体的な研究を行う。

### 3 指導テキストおよび参考書

テキスト：George J. Klir, *An Approach to General Systems Theory*, 1969（変更することがある）

参考書：システムの一般理論、オスカー・ランゲ、合同出版その他

### 4 申し込みの条件

1. 柔軟な思考態度をとれる人。
2. 数学の基礎的知識を身につけている人。

## 山田教官担当研究指導

### 1 研究主題

Management Information Systems……Managementへの Systems Approachならびに Systems Dynamicsに関する理論的ならびに実証的研究。

### 2 指導要領

(イ)全般：経営管理に役立つ情報システム設計のための基礎理論と応用能力の開発をはかり、明日の経営管理者あるいは未来の S.E.としての適応力を高めることを目標にする。

(ロ)3年次：使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。

(ハ)4年次：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成。

### 3 使用テキストおよび参考書

(イ)F. Warren McFarlan, Richard L. Nolan & David P. Norton, *Information Systems Administration*, Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1973.

(ロ)S. C. ブルメンタール著、菊地和聖訳「経営情報システムの設計——計画と開発のフレームワーク——」（東洋経済新報社）

### 4 申し込みの条件

上記研究テーマに十分な関心をもち、ゼミに皆出席すること。

### 5 選考の方法（面接、テスト等）

専門書を原書で解釈するための英語力のテストと面接のうえ総合的に判断して決定する。

## 若林教官担当研究指導

### 1 研究主題

経済、経営事象の定性的ならびに数量的解析の研究。環境破壊、都市問題、所得分配の不平等、社会的公正、能率的な行政、経営管理などを含む。

### 2 指導要領

管理科学の基本的性格として (1)意思決定に中心的な焦点 (2)経済的効率性基準に基づく評価 (3)形式的な数学的、統計的処理 (4)隣接諸科学の適用をあげる。この線に沿って、ゼミの方針としては、幅広い、しかし、厳密な、基本的なものの考え方、論理のすすめ方を習得する。

### 3 指導テキストおよび参考書

ノーベル経済学受賞のアロウ (Kenneth J. Arrow) とレオンチェフ (Wassily Leontief) の著書, 論文に接する。始めはK.J.Arrow, "Mathematical Models in the Social Sciences" と, W.Leontief, "Mathematics in economics" という論文から。

- 4 申し込みの条件: サムエルソン「経済学」, 数学 (微積分, 線形代数) に興味をもつ者。(英語で書かれた文献を読む)。

### 青竹教官担当研究指導

- 1 研究主題: 会社法判例及びアメリカ会社法の研究

#### 2 指導要領

- (1) 全般: 会社法判例を通じて会社法の理解を深めること, 及びわが国の会社法に強い影響を与えているアメリカ会社法の概要を知りあわせて原書を読む能力を養うことを目的とする。
- (2) 49年度~50年度前期: 前半は, 会社法に関する判例 (主として最高裁判例) のうち理論上も実務上もきわめて重要で代表的なものを選び, 会社法が現実にどのように適用されているのかを検討する。後半は, アメリカ会社法の概要を述べた論文 (原文) を輪読しながらわが国の会社法との比較検討する。
- (3) 50年度後期: 会社法に関する問題について各自レポートを作成してもらう。

#### 3 使用テキスト

- (1) 商法の判例 (ジュリスト別冊)
- (2) Corporations: Selected essays reprinted from the Harvard Law Review (Harvard Review Association, Cambridge, 1966)
- 4 その他: 商法 I の講義は会社法を中心とするので必ず履修すること。

### 大谷教官担当研究指導

ゼミ募集要項と参考のこと。

### 神田教官担当研究指導

- 1 民法裁判例の研究
- 2 民法裁判例の研究をとおして, 民法を全体的によく理解することに重点がおかれる。
- 3 民法の判例 (有斐閣), ジュリスト別冊これを終了したのちについては相談のうえ決める。
- 4 卒業年次生については, 夏休み以降, 卒論のテーマに関する研究状況を報告させ, 全体で討論する。
- 5 相当の理由なくかつ, 無断で欠席する者は直ちに除名する。